

# 基本計画書 目次

- (1) 基本計画書…………… P 2
- (2) 設置認可等に関わる組織の移行表…………… P 7
- (3) 設置の前後における学位等及び基幹教員の所属の状況…………… P 8
- (4) 基礎となる学部等の改編状況…………… P 9
- (5) 教育課程等の概要…………… P 10
- (6) 授業科目の概要…………… P 20

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	学部/学科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン イナオキガクエン 学校法人 稲置学園									
フリガナ大学の名称	カナザワセイリョウダイガク 金沢星稜大学									
大学本部の位置	石川県金沢市御所町丑10番地1									
大学の目的	教育基本法及び学校教育法に従い、広く知識を授け、人格の陶冶に努めるとともに、深く専門的学問を教授研究することを目的とし、「誠実にして社会に役立つ人間の育成」を建学の精神として、広く国家社会に貢献し、北陸の興隆と文化の発展に寄与することを使命とする。									
新設学部等の目的	英語を実践的に運用でき、他人の意見を理解し、自分の意見を論理的に表現できる。また、課題解決や情報収集などの手法を用いてさまざまな課題に対処できる能力があり、交渉力を持って課題解決に取り組む態度を備える。さらに、新しい発想を提供できる知性と教養を身につけ、取得した知識とスキルを地域社会や国際社会に積極的に貢献できる能力を修得させることを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	人文学部 国際英語学科 計	年 4	人 30	年次 人 -	人 120	学士 (人文学)	文学関係	年 月 第 年次 令和7年4月 第1年次	石川県金沢市御所町丑10番地1	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	人文学部国際文化学科[定員減] (△30) 令和7年4月 金沢星稜大学女子短期大学部 経営実務科 [定員減] (△52) 令和7年4月									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	国際英語学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位				
		180科目	22科目	4科目	206科目					
新設	学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
			教授	准教授	講師	助教	計			
	設	人文学部 国際英語学科		人	人	人	人	人	人	
				3 (3)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	64 (53)
		a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		3 (3)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	6 (6)	/	/
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
		小計（a～b）		3 (3)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	6 (6)		
		c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
		d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）		3 (3)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	6 (6)			
計		3 (3)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	- (-)		
分			人	人	人	人	人	人		
			3 (3)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	- (-)	

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人

既	人文学部 国際文化学科	3 (3)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	56 (50)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 5人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	3 (3)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	8 (8)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	3 (3)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	8 (8)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	3 (3)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	8 (8)			
経済学部 経済学科	10 (10)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	17 (17)	0 (0)			56 (50)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (10)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	17 (17)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	10 (10)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	17 (17)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	10 (10)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	17 (17)				
経済学部 経営学科	6 (6)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	12 (12)			0 (0)	79 (79)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	12 (12)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	6 (6)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	12 (12)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	6 (6)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	12 (12)				
設	経済学部 地域システム学科	5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)			9 (9)	0 (0)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			

人間科学部 スポーツ学科	7 (7)	0 (0)	4 (4)	2 (2)	13 (13)	1 (1)	72 (72)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 12人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	0 (0)	4 (4)	2 (2)	13 (13)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	7 (7)	0 (0)	4 (4)	2 (2)	13 (13)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	7 (7)	0 (0)	4 (4)	2 (2)	13 (13)			
人間科学部 こども学科	8 (8)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	15 (15)	1 (1)	73 (73)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	15 (15)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	8 (8)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	15 (15)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	8 (8)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	15 (15)			
分 計	8 (8)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	15 (15)	2 (2)	- (-)	
合 計	42 (42)	21 (21)	13 (13)	4 (4)	80 (80)	2 (2)	- (-)	
職 種	専 属		そ の 他			計		
事 務 職 員	人		人			人		
	52 (52)		8 (8)			60 (60)		
技 術 職 員	0 (0)		0 (0)			0 (0)		
図 書 館 職 員	1 (1)		0 (0)			1 (1)		
そ の 他 の 職 員	0 (0)		0 (0)			0 (0)		
指 導 補 助 者	0 (0)		0 (0)			0 (0)		
計	53 (53)		8 (8)			61 (61)		

区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
校 舎 敷 地		0㎡	69,313.79㎡	0㎡	69,313.79㎡					
そ の 他		0㎡	6,649.15㎡	0㎡	6,649.15㎡					
合 計		0㎡	75,913.62㎡	0㎡	75,913.62㎡	金沢星稜大学女子短期 大学部（必要面積3,000 ㎡）と共用 （収容定員：300人）  <b>【借地面積】</b> [校舎面積] 借地面積：4,573㎡ 平成26年5月1日より 借入期間：30年 借地面積：1,359㎡ 平成27年1月1日より 借入期間：30年 借地面積：671㎡ 平成27年1月1日より 借入期間：22年 借地面積：330㎡ 平成27年1月1日より 借入期間：30年  [運動場用地] 借地面積：3,168㎡ 平成26年5月1日より 借入期間：30年 借地面積：1,413㎡ 平成27年1月1日より 借入期間：30年  [その他] 借地面積：4,111.83㎡ 借入期間：2年 [その他] 借地面積：4,111.83㎡ 借入期間：2年 借地面積：303㎡ 借入期間：2年 借地面積計 15,928.83㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	金沢星稜大学女子短期 大学部（必要面積2,350 ㎡）と共用 （収容定員：300人）				
		3,584.48㎡ ( 3,584.48㎡)	23,028.36㎡ ( 23,028.36㎡)	2,003.20㎡ ( 2,003.20㎡)	28,616.04㎡ ( 28,616.04㎡)					
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室	86室	教 員 研 究 室	103室	大学全体				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点			
	国際英語学科	184,524 [27,120] (184,524 [27,120])	59 [51] (59 [51])	2,527 [208] (2,527 [208])	36 [36] (36 [36])	0 ( 0 )	0 ( 0 )			
	計	184,524 [27,120] (184,524 [27,120])	59 [51] (59 [51])	2,527 [208] (2,527 [208])	36 [36] (36 [36])	0 ( 0 )	0 ( 0 )			
ス ポ ー ツ 施 設 等		ス ポ ー ツ 施 設 11,415㎡		講 堂 2,648㎡	厚 生 補 導 施 設 2,582㎡		大学全体			
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	大学全体	
	教員 1 人 当 り 研 究 費 等		300千円	300千円	300千円	300千円	－千円	－千円		
	共 同 研 究 費 等		6,500千円	6,500千円	6,500千円	6,500千円	－千円	－千円		
	図 書 購 入 費	4,525千円	4,525千円	4,525千円	4,525千円	4,525千円	－千円	－千円		
	設 備 購 入 費	1,000千円	500千円	500千円	500千円	500千円	－千円	－千円		
	学 生 1 人 当 り 納 付 金			第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次		第 6 年 次
		経済学部		1,200千円	1,050千円	1,050千円	1,050千円	－千円		－千円
人間科学部			1,290千円	1,140千円	1,140千円	1,140千円	－千円	－千円		
	人文学部		1,362千円	1,212千円	1,212千円	1,212千円	－千円	－千円		
学 生 納 付 金 以 外 の 維 持 方 法 の 概 要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入								

既設大学等の状況	大学等の名称	金沢星稜大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	大学院 経営戦略研究科 経済・経営学	2	10	—	20	修士（経済学・経営学）	0.70	平成14年度	石川県金沢市御所町丑10番地1
	経済学部 経済学科	4	220	—	880	学士（経済）	1.06	昭和42年度	
	経営学科	4	135	—	540	学士（経営学）	1.12	平成16年度	
	地域システム学科	4	85	—	340	学士（経済）	0.72	令和6年度	
	人間科学部 スポーツ学科	4	75	—	300	学士（人間科学）	1.03	平成19年度	
	こども学科	4	68	—	272	学士（人間科学）	1.13	平成19年度	
	人文学部 国際文化学科	4	75	—	300	学士（人文学）	0.94	平成28年度	
大学等の名称	金沢星稜大学女子短期大学部								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
経営実務科	2	150	—	300	短期大学士（経営）	0.65	昭和54年度	石川県金沢市御所町丑10番地1 令和7年度 入学定員減（△52）	
附属施設の概要	<p>名称：金沢星稜大学附属星稜幼稚園 目的：地域における幼児教育及び保育の提供 所在地：石川県金沢市御所町寅27番地 設置年月：平成29年4月 規模等：校地 2,942㎡</p> <p>名称：金沢星稜大学附属星稜泉野幼稚園 目的：地域における幼児教育の提供 所在地：石川県金沢市泉野町6丁目17番30号 設置年月：昭和58年4月 規模等：校地 2,619㎡</p>								

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

## 学校法人稲置学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>金沢星稜大学</b>				<b>金沢星稜大学</b>				
<b>経済学部</b>				<b>経済学部</b>				
経済学科	220	—	880	経済学科	220	—	880	
経営学科	135	—	540	経営学科	135	—	540	
地域システム学科	85	—	340	地域システム学科	85	—	340	
<b>人間科学部</b>				<b>人間科学部</b>				
スポーツ学科	75	—	300	スポーツ学科	75	—	300	
こども学科	68	—	272	こども学科	68	—	272	
<b>人文学部</b>				<b>人文学部</b>				
国際文化学科	75	—	300	国際文化学科	<u>45</u>	—	<u>180</u>	定員変更(△30)
				国際英語学科	<u>30</u>	—	<u>120</u>	学科の設置(届出)
計	658	—	2,632	計	658	—	2,632	
<b>金沢星稜大学大学院</b>				<b>金沢星稜大学大学院</b>				
<b>経営戦略研究科</b>				<b>経営戦略研究科</b>				
経済・経営学専攻	10	—	20	経済・経営学専攻	10	—	20	
計	10	—	20	計	10	—	20	
<b>金沢星稜大学女子短期大学部</b>				<b>金沢星稜大学女子短期大学部</b>				
経営実務科	150	—	300	経営実務科	<u>98</u>	—	<u>196</u>	定員変更(△52)
計	150	—	300	計	<u>98</u>	—	<u>196</u>	



**基礎となる学部等の改編状況**

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
平成28年4月	人文学部 国際文化学科設置	文学関係	設置認可(学部)
令和2年4月	人文学部 国際文化学科のカリキュラム変更	文学関係	学則変更
令和6年4月	人文学部 国際文化学科のカリキュラム変更	文学関係	学則変更
令和7年4月	人文学部 国際英語学科設置	文学関係	設置届出(学科)

教育課程等の概要																	
(人文学部国際英語学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く教員	
共通教育科目	教養ゼミナールA	1①	○	1				○							6		
	教養ゼミナールB	1②	○	1				○							6		
	情報リテラシーⅠ	1①②	○	1				○							8	メディア	
	MDASHリテラシーⅠ	1①③	○	1				○							5	メディア	
	MDASHリテラシーⅡ	1②④	○	1				○							5	メディア	
	小計(5科目)	—	—	—	5	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	14	
	教養の門	1①			1			○				1				8	メディア
	教養の世界	3②			1			○				1				8	メディア
	教養ラボ	3③			1				○			1				8	
	総合領域A	1①			1			○								1	
	総合領域B	1②			1			○								1	
	総合領域C	1④			1			○								1	
	情報リテラシーⅡ	1③④			1			○								8	
	情報学Ⅰ	1①③			1			○								1	
	情報学ⅡA	1②			1				○							1	集中
	情報学ⅡB	1④			1				○							1	集中
	哲学Ⅰ	1①③			1			○								1	
	哲学Ⅱ	1②④			1			○								1	
	哲学Ⅲ	1③			1			○								1	
	論理学Ⅰ	1①③			1			○								2	
	論理学Ⅱ	1②④			1			○								2	
	心理学Ⅰ	1①③			1			○								1	
	心理学Ⅱ	1②④			1			○								1	
	心理学Ⅲ	1③			1			○								1	
	倫理学Ⅰ	1①③			1			○								1	
	倫理学Ⅱ	1②④			1			○								1	
	倫理学Ⅲ	1③			1			○								1	
	宗教学Ⅰ	1①③			1			○								2	
	宗教学Ⅱ	1②④			1			○								2	
	歴史学Ⅰ	1①③			1			○								2	
	歴史学Ⅱ	1②④			1			○								2	
	人文地理学Ⅰ	1①③			1			○								2	
	人文地理学Ⅱ	1②④			1			○								2	
	海外の文化と社会Ⅰ	1①			1			○								1	
	海外の文化と社会Ⅱ	1②			1			○								1	
	海外の文化と社会Ⅲ	1③			1			○								1	
	政治学Ⅰ	1②			1			○								1	集中
	政治学Ⅱ	1②			1			○								1	集中
	法学	1②			1			○								1	
	日本国憲法Ⅰ	1①③			1			○								2	メディア
	日本国憲法Ⅱ	1②④			1			○								2	メディア
	経済学	1②			1			○								1	
	経営学	1④			1			○								1	
	社会学A	1②			1			○								1	メディア
	社会学B	1④			1			○								1	メディア
	異文化コミュニケーション論Ⅰ	1①③			1			○								1	
異文化コミュニケーション論Ⅱ	1②④			1			○								1		
メディア論	1②			1			○								1		
教育学	1②			1			○								1		
文化人類学Ⅰ	1①③			1			○								1		
文化人類学Ⅱ	1②④			1			○								1		
自然科学概論Ⅰ	1①③			1			○								2		
自然科学概論Ⅱ	1②④			1			○								2		
教養数学A	1①③			1			○								1		
教養数学B	1②④			1			○								1		
統計学Ⅰ	1①③			1			○								1	メディア	
統計学Ⅱ	1②④			1			○								1	メディア	



共通教育科目	教職科目	教職入門 (中等)	1③				2	○							1	オムニバス			
		教育学概論 I (中等)	2②				1	○							1				
		教育学概論 II (中等)	2③				1	○							1				
		特別支援教育 (中等)	2②				2	○							2				
		教育心理学 I (中等)	2③				1	○							1				
		教育心理学 II (中等)	2④				1	○							1				
		生徒・進路指導論 (中等)	2後				2	○							1				
		道徳教育の理論と方法 (中等)	2後				2	○							1				
		教育相談の理論と方法 I (中等)	2③				1	○							1				
		教育相談の理論と方法 II (中等)	2④				1	○							1				
		教育社会学 I (中等)	3③				1	○							1	オムニバス			
		教育社会学 II (中等)	3④				1	○							1				
		介護等体験 (事前・事後の指導を含む)	2前				2			○					1				
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 (中等)	3前				2	○							1				
		教育課程論 I (中等)	3①				1	○							1				
		教育課程論 II (中等)	3②				1	○							1				
		教育方法論 (中等)	3前				2	○							2				
		情報教育の理論と方法 I (中等)	2②				1	○							1				
		情報教育の理論と方法 II (中等)	3①				1	○							1				
		中等教育実習・事前事後の指導	34前				1			○					2				
中等教育実習 I	34前				2								1	オムニバス					
中等教育実習 II	34前				2								1						
教職実践演習 (中等)	4後				2			○					2						
小計 (23科目)				0	0	33		—		0	1	0	0		0	11			
共通教育科目合計 (142科目)				7	134	33		—		1	1	0	0	0	57				
専門基礎科目	必修	基礎科目	比較文化	1①②	○	2		○							5	オムニバス・共同 (一部)			
			ワールドトピックス	1②③	○	2		○							1	オムニバス			
			日本社会と文化	1②③	○	2		○							7				
	小計 (3科目)				6	0	0		—		0	0	0	0	0	7			
	選択必修	英語系	Speaking Skills I	1①	○	2		○			1	1				1	オムニバス		
			Speaking Skills II	1②	○	2		○			1	1				1			
			Listening Skills I	1①	○	2		○			1		1			1			
			Listening Skills II	1②	○	2		○			1		1			1			
			Reading Skills I	1①	○	2		○				1				2			
			Reading Skills II	1②	○	2		○				1				2			
			Writing Skills I	1①	○	2		○			1	1				1			
			Writing Skills II	1②	○	2		○			1	1				1			
			Speaking and Presentation I	1③	○	2		○			1	1				1			
			Discussion on Current Events I	1③	○	2		○			1		1			1			
			Writing for Research I	1③	○	2		○			2	1				1			
			Reading and Vocabulary I	1③	○	2		○								2			
			小計 (17科目)				0	34	0		—		3	2	0	1		0	12
			選択	英語系	Speaking and Presentation II	1④		2		○			1						
	Discussion on Current Events II	1④				2		○			1								
	Writing for Research II	1④				2		○			1								
Reading and Vocabulary II	1④				2		○				1								
Grammar in Use I	1③				2		○					1							
Grammar in Use II	1④				2		○					1							
1		1											1						
演習系	海外留学 I	1後		2			○		1	1				4	集中				
	海外留学 II	2前		2			○			1				5	集中				
小計 (8科目)				0	16	0		—		3	2	0	0		8				



(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。
  - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
  - (2) 「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要																	
(人文学部国際文化学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く教員	
必修	教養ゼミナールA	1①	○	1				○			3	2	1		0		
	教養ゼミナールB	1②	○	1				○			3	2	1		0		
必修	情報リテラシーⅠ	1①②	○	1				○							8	メディア	
	MDASHリテラシーⅠ	1①③	○	1				○							5	メディア	
	MDASHリテラシーⅡ	1②④	○	1				○							5	メディア	
	小計(5科目)	—	—	5	0	0		—			3	2	1	0	0	8	
	小計(5科目)	—	—	5	0	0		—			3	2	1	0	0	8	
共通教育科目	教養教育科目																
	選択																
	教養の門	1①			1			○								9	メディア
	教養の世界	3②			1			○								9	メディア
	教養ラボ	3③			1				○							9	
	総合領域A	1①			1			○								1	
	総合領域B	1②			1			○								1	
	総合領域C	1④			1			○								1	
	情報リテラシーⅡ	1③④			1			○								8	
	情報学Ⅰ	1①③			1			○								1	
	情報学ⅡA	1②			1				○							1	集中
	情報学ⅡB	1④			1				○							1	集中
	哲学Ⅰ	1①③			1			○								1	
	哲学Ⅱ	1②④			1			○								1	
	哲学Ⅲ	1③			1			○								1	
	論理学Ⅰ	1①③			1			○								2	
	論理学Ⅱ	1②④			1			○								2	
	心理学Ⅰ	1①③			1			○								1	
	心理学Ⅱ	1②④			1			○								1	
	心理学Ⅲ	1③			1			○								1	
	倫理学Ⅰ	1①③			1			○								1	
	倫理学Ⅱ	1②④			1			○								1	
	倫理学Ⅲ	1③			1			○								1	
	宗教学Ⅰ	1①③			1			○				1	1				
	宗教学Ⅱ	1②④			1			○				1	1				
	歴史学Ⅰ	1①③			1			○								2	
	歴史学Ⅱ	1②④			1			○								2	
	人文地理学Ⅰ	1①③			1			○					1			1	
	人文地理学Ⅱ	1②④			1			○					1			1	
	海外の文化と社会Ⅰ	1①			1			○								1	
	海外の文化と社会Ⅱ	1②			1			○								1	
	海外の文化と社会Ⅲ	1③			1			○								1	
	政治学Ⅰ	1②			1			○								1	集中
	政治学Ⅱ	1②			1			○								1	集中
	法学	1②			1			○								1	
	日本国憲法Ⅰ	1①③			1			○								2	メディア
	日本国憲法Ⅱ	1②④			1			○								2	メディア
	経済学	1②			1			○								1	
	経営学	1④			1			○								1	
	社会学A	1②			1			○								1	メディア
社会学B	1④			1			○								1	メディア	
異文化コミュニケーション論Ⅰ	1①③			1			○					1					
異文化コミュニケーション論Ⅱ	1②④			1			○					1					
メディア論	1②			1			○								1		
教育学	1②			1			○								1		
文化人類学Ⅰ	1①③			1			○					1					
文化人類学Ⅱ	1②④			1			○					1					
自然科学概論Ⅰ	1①③			1			○								2		
自然科学概論Ⅱ	1②④			1			○								2		
教養数学A	1①③			1			○								1		
教養数学B	1②④			1			○								1		
統計学Ⅰ	1①③			1			○								1	メディア	
統計学Ⅱ	1②④			1			○								1	メディア	

共通教育科目	教養教育科目	選択	統計学Ⅲ	1③			1			○										1					
			自然地理学Ⅰ	1③			1				○											1			
			自然地理学Ⅱ	1④			1				○											1			
			環境学Ⅰ	1③			1				○											1			
			環境学Ⅱ	1④			1				○											1			
			生活科学	1④			1				○											1			
			美学	1②			1				○											1			
			デザイン学A	1②			1				○											2			
			デザイン学B	1③			1				○											2			
			ウェルビーイングと健康A	1①			1						○									1			
			ウェルビーイングと健康B	1②			1						○									1			
			スポーツとレジリエンスA	1③			1						○									1			
			スポーツとレジリエンスB	1④			1						○									1			
			健康・スポーツ科学論A	1①			1						○									1			
			健康・スポーツ科学論B	1②			1						○									1			
			言語学	1④			1						○									1			
			音声学入門	1②			1						○									1			
			コミュニケーション論Ⅰ	1①③			1						○									1			
			コミュニケーション論Ⅱ	1②④			1						○									1			
			日本語上級ⅠA	1①			2						○									1			
			日本語上級ⅠB	1②			2						○									1			
			日本語上級ⅠC	1③			2						○									1			
			日本語上級ⅠD	1④			2						○									1			
			日本語上級ⅡA	2前			2						○									1			
			日本語上級ⅡB	2後			2						○									1			
			日本語リテラシーA	1前			2						○									1			
			日本語リテラシーB	1後			2						○									1			
			中国語Ⅰ	1①③			2						○									1			
			中国語Ⅱ	1②④			2						○									1			
			韓国語Ⅰ	1①③			2						○									1			
			韓国語Ⅱ	1②④			2						○									1			
			ドイツ語Ⅰ	1①③			2						○									1			
			ドイツ語Ⅱ	1②④			2						○									1			
			フランス語Ⅰ	1①③			2						○									1			
			フランス語Ⅱ	1②④			2						○									1			
			スペイン語Ⅰ	1①③			2						○									1			
			スペイン語Ⅱ	1②④			2						○									1			
			ロシア語Ⅰ	1①③			2						○									1			
			ロシア語Ⅱ	1②④			2						○									1			
			日本文学A	1②			1						○									1			
			日本文学B	1④			1						○									1			
			英米文学Ⅰ	1①③			1						○									1			
			英米文学Ⅱ	1②④			1						○									1			
			英米文学Ⅲ	1③			1						○									1			
			海外研修Ⅰ	1			1						○									1			
			海外研修Ⅱ	1			1						○									1			
			海外研修Ⅲ	1			1						○									1			
			海外研修Ⅳ	1			1						○									1			
			海外研修Ⅴ	1			1						○									1			
			海外研修Ⅵ	1			1						○									1			
			海外研修Ⅶ	1			1						○									1			
			海外研修Ⅷ	1			1						○									1			
			海外研修Ⅸ	1			1						○									1			
			海外研修Ⅹ	1			1						○									1			
			小計(105科目)				0	125	0				-			1	3	0	0	0	0	39			
			共通教育科目	キャリア教育科目	選択	キャリア入門Ⅰ	1①②			1			○										2		
						キャリア入門Ⅱ	1③④			1				○										2	
						キャリアプランニングⅠ	2①②			1					○									1	
						キャリアプランニングⅡ	2③④			1					○									1	
						チームビルディング	2前			2						○								1	
						プレゼンテーションスキルズ	2後			2						○								1	
						業界課題研究Ⅰ	2③			1						○								1	
						業界課題研究Ⅱ	2④			1						○								1	
						キャリア実践演習	2後			1							○							1	
			小計(9科目)				2	9	0				-			0	0	0	0	0	4				
			共通教育科目合計(142科目)					7	134	0			-			1	3	0	0	0	43				

メディア  
メディア

集中

専門基礎科目	必修	基礎科目	比較文化	1①②	○	2		○		2	3					オムニバス・共同 (一部)	
			ワールドトピックス	1②③	○	2		○		1							
			日本社会と文化	1②③	○	2		○		3	4						オムニバス
			小計 (3科目)			6	0	0	—	3	4	0	0	0	0		
	選択必修	英語系	Speaking Skills I	1①	○		2		○							3	
			Speaking Skills II	1②	○		2		○							3	
			Listening Skills I	1①	○		2		○							3	
			Listening Skills II	1②	○		2		○							3	
			Reading Skills I	1①	○		2		○							3	
			Reading Skills II	1②	○		2		○							3	
			Writing Skills I	1①	○		2		○							3	
			Writing Skills II	1②	○		2		○							3	
			Speaking and Presentation I	1③	○		2		○							3	
			Discussion on Current Events I	1③	○		2		○							3	
		Writing for Research I	1③	○		2		○							4		
		Reading and Vocabulary I	1③	○		2		○							2		
		文科系	言語文化論A	1②	○		2		○		3	3					
			言語文化論B	1③	○		2		○		3	3					
			地域研究A	1②	○		2		○				1				
			地域研究B	1③	○		2		○		3	4					オムニバス
物質文化A			1③	○		2		○			1						
小計 (17科目)			0	34	0	—	3	4	1	0	0	10					
選択	英語系	Speaking and Presentation II	1④			2		○							1		
		Discussion on Current Events II	1④			2		○							1		
		Writing for Research II	1④			2		○							1		
		Reading and Vocabulary II	1④			2		○							1		
		Grammar in Use I	1③			2		○							1		
	Grammar in Use II	1④			2		○							1			
	演習系	海外留学 I	1後			2		○		2	1	1			2	集中	
海外留学 II		2前			2		○		1	4				1	集中		
小計 (8科目)			0	16	0	—	3	4	1				6				

専門 発展科目	学部 共通科目	必修	ゼミナール	専門ゼミナールⅠ	3通	○	3				○		3	2				3				
			専門ゼミナールⅡ	4通	○	3				○		1	4						3			
			卒業研究	4④	○	2				○		1	4							3		
			基幹科目	多文化共生論	2②③	○		2			○		1								7	オムニバス
				Aspects of Language and Culture	2②③	○		2			○		3	3								
		リサーチリテラシー		2後	○		2			○												
		Academic Writing		2後	○		2			○										4		
		小計 (7科目)				8	8	0		—	3	4	0	0	0	0	0	0	9			
		選択必修	資格対策	TOEIC I	2②③	○		1		○										1		
			TOEIC II	2③④	○		1			○										1		
	TOEIC III		2後	○		2			○										1			
	TOEIC IV		2後	○		2			○										1			
	小計 (4科目)				0	6	0		—	0	0	0	0	0	0	0	0	1				
	選択必修	コア科目	ジャパニーズ・スタディーズ	2後	○		2		○			1	1									
			グローバル化と地域文化	2後	○		2			○		1										
			ジェンダーと現代社会	2後	○		2			○			1									
			観光文化論	2後	○		2			○		1										
			比較宗教論	2後	○		2			○		1	2									
	小計 (5科目)				0	10	0		—	3	3	0	0	0	0	0	0					
	選択	宗教	宗教と文化Ⅰ	3前			2		○										1			
			宗教と文化Ⅱ	3前			2			○									1			
			キリスト教と文化	3後			2			○			1									
			イスラームと文化	3後			2			○			1									
仏教と文化			3後			2			○		1											
世界の諸地域		カルチャーズ・イン・ジャパン	3前			2			○			1	1									
		Tourism in Global Society	3前			2			○		1											
		Area Studies C	2後			2			○		3											
		地域研究D	3前			2			○			1										
		地域研究E	3前			2			○										1			
		Global Issues	2後			2			○		1											
国際関係論		3前			2			○		1												
文化の諸相		マイリティと文化	3前			2			○			1										
	芸術と文化	3後			2			○			1											
	思想と文化	3前			2			○			1											
	ジャーナリズム論	3後			2			○		1												
	視覚メディア論	3前			2			○		1												
	Intercultural Communication Practice	3前			2			○		1												
観光ド ファイ 演習	観光まちづくり論	3前			2			○		1												
	比較文化調査演習Ⅰ	3前			2			○			1											
	比較文化調査演習Ⅱ	3前			2			○										1				
	比較文化調査演習Ⅲ	3前			2			○		1												
小計 (23科目)				0	46	0		—	3	4	0	0	0	0	0	4						
専門教育科目合計 (67科目)						14	120	0		—	3	4	1	0	0	0	15					
合計 (185科目)						21	254	0		—	3	4	1	0	0	0	56					
学位又は称号		学士 (人文学)			学位又は学科の分野			文学関係														
卒業・修了要件及び履修方法											授業期間等											
《卒業要件》 卒業に必要な単位数は、124単位以上とする。なお、科目区分ごとに以下の要件を付す。 (1) 「共通教育科目」は、「教養教育科目」と「キャリア教育科目」で構成され必修を含め18単位以上修得すること。 ① 「教養教育科目」の「教養ゼミナールA・B」、「情報リテラシーⅠ」、「MDASHリテラシーⅠ・Ⅱ」5単位必修 ② 「教養教育科目」と「キャリア教育科目」の選択科目より16単位以上 (2) 「専門教育科目」は、「専門基礎科目」と「専門発展科目」で構成され必修を含め66単位以上取得すること。 ① 「専門基礎科目」の必修で6単位、選択必修で18単位以上取得すること。 ② 「専門発展科目」は、必修18単位以上、コア科目6単位以上、学科選択10単位以上他学科 (国際英語学科) 科目4単位以上取得すること。 《履修登録の上限》 履修科目の登録上限は、年間44単位とする。											1学年の学期区分				2学期 (一部4学期制)							
											1学期の授業期間				15週 (一部8週)							
											1時限の授業の標準時間				90分							

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
  - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
  - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部国際英語学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養教育科目	教養ゼミナールA	○	本科目では、大学の早い段階から、授業や科目での多様な学び方、あるいは担当者の豊富で多様な教え方や専門分野周辺を経験することにより、大学での学びに対するとらえ方や概念の形成、中等教育までの学びの次元をさらに上げるための支援的な方法を提供する。大学4年間ひいては社会に出てからの人間の多様性にふれたときの対応やコミュニケーションを円滑に発揮できる機会作りでもある。特に、大学で学ぶためのスキルや能力、姿勢や態度は、大学生活における日々の授業の理解、レポートや論文の作成、進捗や成果報告のプレゼン、あるいは多様な課題への対処など、様々な局面で必要となる。また、論理的な思考法に関する技術や創造的思考、問題解決能力、批判的思考、情報収集力、あるいは自らの考えの表現能力などの礎を目指す。原則として「教養ゼミナールA、B、C、D」では担当者が入れ替わり、受講生の多様な学びと担当者の協同的な教育を行う。	
	教養ゼミナールB	○	本科目では、大学の早い段階から、授業や科目での多様な学び方、あるいは担当者の豊富で多様な教え方や専門分野周辺を経験することにより、大学での学びに対するとらえ方や概念の形成、中等教育までの学びの次元をさらに上げるための支援的な方法を提供する。大学4年間ひいては社会に出てからの人間の多様性にふれたときの対応やコミュニケーションを円滑に発揮できる機会作りでもある。特に、大学で学ぶためのスキルや能力、姿勢や態度は、大学生活における日々の授業の理解、レポートや論文の作成、進捗や成果報告のプレゼン、あるいは多様な課題への対処など、様々な局面で必要となる。また、論理的な思考法に関する技術や創造的思考、問題解決能力、批判的思考、情報収集力、あるいは自らの考えの表現能力などの礎を目指す。原則として「教養ゼミナールA、B、C、D」では担当者が入れ替わり、受講生の多様な学びと担当者の協同的な教育を行う。	
	情報リテラシー I	○	現代社会においては、情報の収集・活用・表現などの能力が必要とされる。この科目では、これらの能力を習得していくにあたって必要となる基本的なICTツールの利活用方法を中心に演習で学ぶ。大学での学習や研究だけでなく、社会で必要となる知識を意識し、コンピューターやタブレットなどの情報機器および各種の情報システムの適切かつ安全な利用スキルを習得する。特に、自身の考えをレポートや論文といった「意味のある情報」として人に伝えるためのスキルに主眼を置き、インターネット検索やOfficeツールを活用したデータ収集・集約の基本的なスキルを習得する。	メディア
	MDASHリテラシー I	○	MDASH(Mathematics, Data science, and AI Smart Higher Education)リテラシーはこれからの世界を生きる学生にとって文系理系の枠を超えて求められるスキルの一つである。この科目は、MDASHリテラシーIIと合わせて、MDASHリテラシーレベルで扱う基本分野を網羅している。MDASHリテラシーIでは、特に現代社会におけるAIの活用事例やデータサイエンスの基礎を中心に学ぶ。学習を通して、身の回りの小さな問題から社会問題まで、その背後にあるデータを捉えて科学的・論理的に解析することで今まで見えなかったデータの本質を捉える力を習得する。また、データリテラシーに関する実習を通して、ITツールの有効な利活用方法を習得し、データサイエンスの思考に必要な基礎知識を習得する。	メディア
	MDASHリテラシー II	○	MDASH(Mathematics, Data science, and AI Smart Higher Education)リテラシーはこれからの世界を生きる学生にとって文系理系の枠を超えて求められるスキルの一つである。この科目は、MDASHリテラシーIと合わせて、MDASHリテラシーレベルで扱う基本分野を網羅している。MDASHリテラシーIIでは、現代社会を取り巻く様々な問題を数理、データサイエンス、AIの知識を用いて解き明かし、解決していくための手法や考え方を身につけることを目標とする。そのために必要となる、多種多様なデータを読み解き、分析し、有効に活用するための知識を学ぶ。また、演習を通して実際にデータ分析を体験し、データを適切に扱うための実践的なITスキルを習得する。	メディア
	教養の門			大学1年生を主な履修者として想定するオンデマンド科目である。具体的には以下の三つの動画群による構成を計画している。①導入（大学での学びとはどのようなものか、教養とは何か、などといった教養教育の理念に関係する内容）、②対話（本学の教養教育における6つのコア領域である「言葉」、「心」、「身体」、「社会」、「人間」、「自然」に関して、専門領域の異なる複数教員による対話）、③魅力発信（教養教育科目を担当する教員による各科目や各学問領域の魅力を紹介）。本科目を通じて、学生が、本学での学修を円滑にスタートさせるとともに、「教養」という視点から各学問領域や学術的テーマの見取り図を描くことができるようになることを到達目標とする。

**授 業 科 目 の 概 要**

(人文学部国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	教養 教育 科目	教養の世界	大学3年生を主な履修者として想定するオンデマンド科目である。具体的には以下の二つの動画群による構成を計画している。①導入(研究とはどのようなものか、研究と社会とはどのような関わりがあるか、後期教養教育とは何かなどといった教養教育の理念に関する内容)、②最先端の道案内(教養教育科目を担当する教員が、日頃どのような研究に取り組んでいて、当該学問分野では他にどのような研究がなされているのか、教養的世界の最先端を紹介)。本科目を通じて、学生が、本学での後期教養教育の学修を円滑にスタートさせるとともに、「教養」という視点から各研究領域の最先端を知ることで、「研究」という営みを理解し、自ら「研究」を実施する際の手がかりを得るとともに、研究と社会とのかかわりを理解することで、市民として「研究」という営みに対しどのように接すればよいのか、自らの見解を持てるようになることを到達目標とする。	メディア
		教養ラボ	教養教育科目で学んできた多様かつ分野横断的な学びにストーリーを与えてふりかえるための科目である。履修してきた自己の科目選択のナラティブをもとに、PBL(問題解決型学習)、実験実習、創造的活動、フィールド活動、あるいはチュートリアル実践などを通して「教養力」をさらに強くすることを目的とする。特に、身体感覚をスキルの獲得に活かしたり、言葉を使って思考の多様性を学んだり、心の動きを理解して人とのつながりを深めたりできるように、教養教育のナラティブとして大学での学びの多様性を享受する。大学とは何であるか、教養での学びとは何か、生きることの意味は何かなど、人やモノやコトや情報との関係性を意識しつつ、大学における教養的な自己の修練のふりかえりの場として、教養教育科目の高学年次に配当される科目とする。	
		総合領域A	「学際的」という用語に初めて触れる学生を念頭に置き、学際的な取り組みの事例、学際的に物事に取り組むことに対する学生にとっての効用を紹介し、さらに、学際的に取り組むための具体的な方法も提示する。それによって学生が、学際的な思考法を身につけ、諸科学の専門的知見に基づいて、様々な事柄に対する判断に、学際的研究の方法を適用できるようになることを到達目標とする。学際的研究では専門的知見を必須とする。したがって、本科目は、学生が様々な専門的知見に触れつつ、自身の専門領域に対して異なる視点から取り組むことになるため、専門領域に対する学習効果を増進させる機会にもなる。	
		総合領域B	「学際的」という用語に初めて触れる学生を念頭に置き、学際的研究を実施する際に必要となる諸学問の核となる部分、および、諸学問を越えて共通する根本的な問いを提示する。それによって学生が、さまざまな学問領域における概念的知識を理解するとともに、領域横断的にもとを考察することができるようになることを到達目標とする。例えば、論理学、数学、経済学、歴史学などを取り上げ、これらの学問にとって核となる部分を提示しつつ、諸学問の壁を越えて問われている「法則と人間の認識の関係」、「理論と実践との関係」といった問いに対するアプローチを提示する。また、諸学問においてそれぞれ意味が異なりつつも共通して用いられる「法則」、「対象」、「存在」、「認識」、「知能」、「合理性」、「物体」、「空間」、「類と種」、「必然性と偶然性」、「説明」、「メタ」、「意味」などといった学術的研究の根幹に位置する諸概念のあり方を説明する。	
		総合領域C	現代社会では複雑かつ流動的なさまざまな問題が顕在化しており、これらを解決するには単一の学問分野のみに留まらない体系的な知識や包括的な思考力が必要である。そこで本科目では、広い視野で物事を捉え、領域横断的に問題解決に取り組むための力を養うことを目的とする。また、大学での学びを体系的に捉え、さまざまな社会問題に対して自ら問いを見つけ出し、その問いに答えるために必要な知識や技能を習得できるよう計画を立てることができるようになることを目指す。	
		情報リテラシーⅡ	情報社会で重要な能力は、情報の収集、情報の表現、コミュニケーションである。情報の収集では、キーワード検索などのノウハウだけでなく、データや情報を正しく分析したり見極めたりする能力が求められる。情報の表現では、いろいろなメディアやチャネルを使って、伝えたい情報をわかりやすく表現し、確実に相手に伝えることが重要である。こうした情報収集力と情報表現力を組み合わせることで、様々なコミュニケーションを深めたり広めたりできるようになる。さらに、情報端末からネットワークを介した先には、人間が存在するという事も覚えておく必要がある。これらを踏まえた上で、応用的でやや高度な情報リテラシーも含めて、情報処理を中心に学ぶ。特に、多様で効率的な情報やデータの処理ができるように、情報処理のスキルを体験的に理解していく。	
		情報学Ⅰ	この科目では、情報という概念を広義に捉えつつ、データとは何か、情報とは何かについて基礎的な事項を学ぶ。日常にあふれるデータや情報には具体的にどのようなものがあるか、またその異同や属性は何かについて理解するとともに、それらのデータや情報を処理するとはどういうことかについて図式やモデルを用いた解説と演習を行う。データや情報をどのように捉え、どのような処理があつて、また、どのようにモデル化していけばよいのかに関してUML(Unified Modeling Language:統一モデリング言語)の基礎にも触れながら議論する。さらに、情報がどのように符号化され、またどのように圧縮されて利用されているのかについて、情報の表現と圧縮という観点からも学ぶ。	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人文学部国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目  教養教育科目	情報学ⅡA		「情報学Ⅰ」での基本的な情報とモデル化について理解した後、データと情報、情報処理、通信とネットワーク、およびデータベースの構成など、情報システムに関する基礎的な事項について学ぶ。特に、情報システムの処理の仕方やその利用方法の体験的な理解とともにそのモデリングの方法について知り、実際に情報システムの概念設計を行う。人間と情報システムの両面から捉えながら、情報の流れを支える情報通信技術や情報処理システムを用いた情報の活用方法や実情について理解していく。また、情報処理やシステム利用に影響すると考えられる人間の知覚や認知過程を理解しながら、ユーザインタフェースについての理解を深める。	集中講義
	情報学ⅡB		「情報学Ⅰ」での基本的な情報とモデル化について理解した後、ソフトウェア開発やプログラミングに用いられる考え方の一つとして知られるオブジェクト指向を使って、データや情報の構造や処理の流れについての具体的なモデリングを学ぶ。特に、身近な事象や物を対象として、人、モノ、コトの関係性についてモデリング手法を用いてデザインし、インスタンス、クラス、プロパティ（属性）、メソッド（操作）、カプセル化、継承、ポリモーフィズムなどの概念を体験的に理解できるように講述と練習を行う。また、オブジェクト指向のプログラミング言語であるJava、Python、あるいはScratchなどの基礎についても解説する。	集中講義
	哲学Ⅰ		「哲学」という学問に初めて触れる学生を念頭に置き、主要な概念と思考法を紹介する。それによって学生が、哲学に特徴的な知識と思考法を身につけ、身近な事柄に対する判断に応用できるようになることを到達目標とする。伝統的に「哲学」という学問体系の主要な概念は真、善、美とされている。これらは形而上学（存在論と認識論）、倫理学、美学という哲学という学問体系の小分類に対応している。本科目では、この三つの小分類を紹介するとともに、とりわけ形而上学を扱う。形而上学が扱う具体的な問いをよりよく考えるために、哲学に特徴的な考え方である「深く考えるための思考法」（分析、批判、抽象など）、「広く考えるための思考法」（総合、再定義、組織化など）などを提示する。	
	哲学Ⅱ		「哲学」という学問に触れた経験のある学生を念頭に置き、形而上学における典型的なテーマを紹介する。例えば、「心と身体の関係」に関する近代から現代にいたる哲学者たちによる考察である。それによって学生が、当該テーマに対する哲学的考察および哲学史に関する知識を理解し、哲学に特徴的な思考法である「深く考えるための思考法」を習得し、学生自身が関心を抱く学問の対象に対してもその思考法を応用できるようになることを到達目標とする。典型的なテーマの例として想定している「心と身体の関係」は、主に西洋近代哲学において集中的に論じられてきた。その後も、西洋近代哲学という枠組みを超えて、現代の「心の哲学」においても重要な位置を占めるテーマとなっている。したがって、デカルト、スピノザ、マルブランシュ、ライプニッツといった西洋近代哲学者の思想とともに、南方熊楠といった本邦の思想家に加え、現代の心の哲学の諸見解も提示する。	
	哲学Ⅲ		「哲学」という学問にある程度習熟している学生を念頭に置き、形而上学に限定されない広い意味での哲学的なテーマを紹介する。例えば、「自然の世界」に関する様々なテーマに関して、哲学者たちによる考察を紹介する。それによって学生が、当該テーマに対する哲学的考察に関する知識を理解し、哲学に特徴的な思考法である「広く考えるための思考法」を習得し、あらゆる学問の対象に対してもその思考法を応用できるようになることを到達目標とする。想定しているテーマは、「世界の初めと終わり」、「地球外生命体」、「人間以外の生物にとっての世界」などである。これらは、自然科学、人文科学、社会科学という枠組みを取り払った幅広い観点から、多くの哲学者たち（例えば、カント、フントネル、ユクスキュル、ハイデッガーなど）によって論じられてきた。本科目では、こういった広い意味での「哲学」に関する哲学的考察を提示する。	
	論理学Ⅰ		「論理的思考」に初めて触れる学生を念頭に置き、論理の基礎を紹介しつつ、その具体的な使用法を経験させる。それによって学生が、論理に関する知識と思考法を身につけ、身近な事柄に対する判断に論理を応用できるようになることを到達目標とする。具体的には、①論理の基礎として、そもそも論理や論証とはどのようなものか、接続表現の意味と使い方、事実・推測・意見の違い、さまざまな論証の形、論証の整理と評価などを提示する。また、②論理を実際に使い、定着させるために、論理的に「読むこと／書くこと」、論理的に「聴くこと／話すこと」、という合計四つの事柄に取り組みせたり、さまざまな具体的場面を想定し、ロールプレイングを経験させたりする。	
	論理学Ⅱ		「論理的思考」に触れた経験のある学生を念頭に置き、狭義の論理学的な推論だけではなく、科学研究等で用いられている論理的推論の形式や具体例も紹介しつつ、その使用法を数多く経験させる。それによって学生が、広い意味での「論理」に関する知識と思考法を十分に身につけ、学術的なディスカッションや企業等における情報伝達の場において論理を適切に使用できることを到達目標とする。例えば、相手との対話を通じてよりよい議論を築き上げることを念頭に置いた、根拠や推論形式の批判的検討や、デカルトの四つの規則として知られる、明証性、分析、総合、枚举というフレームワークの提示などをする。	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人文学部国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目  教養教育科目	心理学Ⅰ		心理学は、人間や動物の行動と心を研究対象とする分野であることから、最も身近な学問領域の一つであると言える。そのなかで、「学ぶ」という態度や姿勢あるいは「学び」の様々な方法に関する問題について心理学の立場や知見をもとに講述する。特に、概念、知識、記憶、学習など、人の認知的な心の働きや作用について扱う。「学ぶ」ということが人にとってどういうことであるか、「学び」にはどのような見方や考え方が心理学的には必要であるのかについて、現象や事例を中心に受講生とともに議論していく。	
	心理学Ⅱ		「心理学Ⅰ」で学んだ学びや学び方の心理学的な意味を押しさえつつ、一般的によく知られている心理学的な興味や関心に対する誤解や偏見を払拭し、科学的で客観的な体系立った学問領域の文脈で人間や動物の心や行動を研究対象とする分野として心理学を捉えていく。特に、人の思考や創造性、他者による影響と他者の認知、心と社会と文化の関係、および人間とモノとコトとの関係などについての心理学的な考えを深める。また、人の心的機能や動物の行動が環境との間でどのように作用しているかを講述し、生態心理学的な視点からの環境と行動との関係性の理解を深める。	
	心理学Ⅲ		「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」で学んだ学びや学び方の心理学的な意味や考え方を押しさえつつ、一般的によく知られている心理学的な興味や関心に対する誤解や偏見を払拭し、科学的で客観的な体系立った学問領域の文脈で人間や動物の心や行動を研究対象とする分野として心理学を捉えていく。特にこの科目では、心の生物学的基盤としての脳と心との関係について理解し、感覚、知覚、注意機能の仕組みや働きを知り、自分自身の見方や考え方や感じ方の特徴、他人と自分との心理学的な異同等に関して、その機序を科学的に理解できるように講述する。	
	倫理学Ⅰ		「倫理学」という学問に初めて触れる学生を念頭に置き、主要な概念と思考法を紹介する。それによって学生が、倫理学に特徴的な知識と思考法を身につけ、身近な社会問題に対する判断に応用できるようになることを到達目標とする。「倫理学」という学問体系は、倫理理論、応用倫理学、メタ倫理学という小分類からなる。本科目では、この三つの小分類を紹介するとともに、主に「倫理理論」を扱う。具体的には、①幸福、義務、徳に主要な位置付けを与える規範倫理学（功利主義、義務論、徳倫理学）、②自由、平等、公共、国家などに主要な位置付けを与える政治哲学（リベラリズムの諸理論、リベラリズムの対抗諸理論）などを概念的に紹介する。また、倫理学に特徴的な考え方である「直観レベルと理論レベルを往復する思考法」、「記述的アプローチと規範的アプローチを往復する思考法」なども提示する。	
	倫理学Ⅱ		「倫理学」という学問に触れた経験のある学生を念頭に置き、主に「メタ倫理学」に関する様々なテーマを紹介する。それによって学生が、倫理学という学問における根本的な諸概念に関する知識を理解し、メタ倫理学に特有の抽象的な思考を通じて、規範の実在性（あるいは反実在性）について深く考えることができるようになることを到達目標とする。メタ倫理学の出発点には、客観性と規範性という両立し難い倫理的判断のあり方と、信念と欲求という相容れない心のあり方というヒューム的な心理理解があり、これらの組み合わせを考えると、整合性が担保できないという問題がある。本科目では、この出発点に基づいて、實在論&認知主義、反實在論&非認知主義、反ヒューム主義という三つのメタ倫理学を代表する立場などを紹介し、「善と悪」、「義務と禁止」といった倫理学の根本に位置付けられる諸概念に対する抽象的なアプローチなども提示する。	
	倫理学Ⅲ		「倫理学」という学問にある程度習熟している学生を念頭に置き、主に「応用倫理学」に関する様々なテーマを紹介する。それによって学生が、幅広い社会問題に対する知識を理解し、倫理理論に基づいて自らの倫理的判断を適切に正当化できるようになることを到達目標とする。具体的には、生命、医療、教育、法、情報などといった、様々な学問領域にわたるテーマを扱う。本科目では、例えば「文脈」という、応用倫理学にとって不可避の問題でありつつ、倫理学の普遍性を毀損する可能性があるあり方に深く取り組むことで、学生が倫理学を身近に感じるとともに、倫理学の本質的な問題点にも接することができるようにする。	
	宗教学Ⅰ		宗教学の目的は、「宗教とは何か」という問いについて、理論的考察、実践的立場など様々な立場から問うことである。本科目では宗教学を学ぶ入り口として、まず自分の身近な宗教や自分と宗教の関係について改めて考えることを出発点に、「宗教」という言葉の語源、東西の思想史における意味内容の変遷について分析する。そして、日本語における「宗教」という言葉の独自性について分析する。さらに日本人の宗教意識や宗教学の特徴について「無神論」「無宗教」という概念をカギに考察する。	
	宗教学Ⅱ		宗教学Ⅰを基礎に宗教学Ⅱでは、「人はなぜ祈るのか」という問いについて宗教学的観点から分析することを目的とする。そのためにまず、日常生活に身についている祈りの行為や言葉に注目し、その言葉や行為に顕れている祈りの内面性について考察する。さらに「祈り」とは何かという問いを考えるために、西洋語、日本語における「祈り」という言葉の語源、意味について分析し、それを踏まえて、1) 祈りと通過儀礼の関係、2) 祭祀と祈りの関係、3) 修行や瞑想における祈り、4) 諸宗教対話における祈りについて考える。	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人文学部国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	教養 教育 科目	歴史学Ⅰ	我が国の近代は開国以来ヨーロッパをモデルとして国作りに努めてきた。「文明開化」や「富国強兵」をスローガンに近代化が推進され、現在の社会制度や文化を形成してきた。本講義では国家や世界の動向にたいし、本地域（石川県、金沢市等）ではどのように対応して現在の地域を形成してきたのかを見てゆく。本講義では、藩政期から日露戦争までを対象とする。なお、歴史的視点は社会を認識し生きていく上で重要なリテラシーの一つと考えられる。講義を通じて歴史的なものの見方、考え方を学び、今後に生かしてほしいと考える。	
		歴史学Ⅱ	我が国の近代は開国以来ヨーロッパをモデルとして国作りに努めてきた。「文明開化」や「富国強兵」をスローガンに近代化が推進され、現在の社会制度や文化を形成してきた。本講義では国家や世界の動向にたいし、本地域（石川県、金沢市等）ではどのように対応して現在の地域を形成してきたのかを見てゆく。本講義では、大正期から現在までを対象とする。なお、歴史的視点は社会を認識し生きていく上で重要なリテラシーの一つと考えられる。講義を通じて歴史的なものの見方、考え方を学び、今後に生かしてほしいと考える。	
		人文地理学Ⅰ	この科目では、人文地理学という学問の成り立ちや、「地域」を学ぶ際に必要なくつかの方法論を学ぶ。地図の読み方や、人口と産業などのキーワードをもとに「地域」の見方を身に付けるといった内容を含む。また、金沢とともに世界各地の事例紹介から、ローカルとグローバルの視点の両方を養う学びも含まれる。	
		人文地理学Ⅱ	この科目は、人文地理学Ⅰから引き続き「地域」を学ぶ際に必要なくつかの方法論を学ぶ。都市圏や観光などをキーワードに、履修者が「地域」の見方を身に付ける内容を含む。学びの過程において、フィールドワークやネットの利用を通して、履修者が自ら設定した「地域」を分析し、その特徴を提示することが求められる。	
		海外の文化と社会Ⅰ	ヨーロッパに対する理解を深めるべく、まず歴史上の様々なエピソードを交えながら、特にハプスブルク家、ブルボン家という名門の系譜を追っていくことによって、ヨーロッパの歴史的形成と発展を辿っていく。それから、ヨーロッパの政治や経済における国家共同体であるEUが誕生するまでにあった歴史的経緯も踏まえてEU発展の過程を詳しく見ていき、さらに近年のEUの問題点（イギリスのEU離脱問題、シリア難民問題など）を追究する。それによって、多くの国際ニュースについて必要な背景知識を持ちながら開けるようにするのが目的である。	
		海外の文化と社会Ⅱ	「海外の文化と社会Ⅰ」で学んだヨーロッパの歴史を踏まえ、ヨーロッパの文化やホットな社会問題など、ヨーロッパについて幅広く学ぶ。また、フランス、ドイツ、イタリア、スペインを中心にヨーロッパ各国の社会・文化についての知識を増やし、国際化時代を生きるうえで不可欠な広い視野と見識を身につける。さらに外国特有の事情や他の国の人々の価値観やものの見方について理解を深め、異なる文化をもつ人々とのコミュニケーションに役立つ教養を豊かにしていく。	
		海外の文化と社会Ⅲ	世界で日々起きている出来事に関心を持ち、国際社会の様々な事柄に対して自分の考えを深める姿勢を養うべく、「海外の文化と社会Ⅰ・Ⅱ」で取り上げなかったヨーロッパの国や、アメリカ、オーストラリアの文化・社会の特徴を学んでいく。特に、世界の経済、金融、文化の中心の一つであるニューヨークについては、その魅力を多角的に追究する。「海外の文化と社会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を通して、文化・社会の多様性に触れることで関心の幅を広げ、国際ニュースについて積極的に情報を得ようとする態度を養っていく。	
		政治学Ⅰ	政治学はその全体を通して、(1)戦後日本の主要な政治アクターや制度に関する基本的な知識の整理、(2)戦後政治のあり方、(3)政治と市民の関わりを取り上げる。本科目では主に政治学の基本となる「権威」や「権力」の概念、日本の「民主主義」におけるアクター間の相互作用について学ぶことを目的とする。通常の知識伝達型の講義形態とともに、グループワーク等のアクティブ・ラーニング等も活用しながら、政治の必要性を学ぶ。	集中講義
		政治学Ⅱ	政治学はその全体を通して、(1)戦後日本の主要な政治アクターや制度に関する基本的な知識の整理、(2)戦後政治のあり方、(3)政治と市民の関わりを取り上げる。本科目では、政治学Ⅰの履修から得た知識を前提としつつ、主に政治における国内外のアクターの行動やその要因、また、アクター間の相互作用などについて学ぶことを目的とする。通常の知識伝達型の講義形態とともに、グループワーク等のアクティブ・ラーニング等も活用しながら、政治の必要性を学ぶ。	集中講義
		法学	超高齢化の進展や急速なITの普及など、今日、日本社会はかつて経験したことのない速度で変化している。この変化に対応しつつ、人々の福祉を権利・義務の観点から維持・確保するのが法の役割である。本授業の目的は、法はどのような原理・原則に基づいて私達の生活を支え、社会を構築しているのかを明らかにすることである。具体的には、①主要な法律分野の基本原則を理解する、②法の歴史をグローバルな視点で理解する、③法と経済や法と政治との関係など、隣接分野との関係についても学修する。	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人文学部国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	教養 教育 科目	日本国憲法 I	日本国憲法が自分たちの生活にどのように関わっているのかについて、実際に裁判となった事案や社会で議論されている事柄などをもとに学修する。日本国憲法の特徴や基本原理、憲法と法律の関係性から、憲法の役割や機能について理解を深めるとともに、現代社会を生きるうえで基盤となる憲法学的な視点や考察力を身につける。	メディア
		日本国憲法 II	日本国憲法が自分たちの生活にどのように関わっているのかについて、実際に裁判となった事案や社会で議論されている事柄などをもとに学修する。日本国憲法の目的である人権保障の観点から、個人情報のデータ化、性的マイノリティ、子どもの貧困といった日本社会が直面する具体的な問題を取り上げ、関連する判例や学説をもとに、現代社会を生きるうえで憲法学的な視点や考察力を身につける。	メディア
		経済学	人が生活し、社会的に活動することには、人間の生存に必要な物的な富を生産し消費し交換し明日に備えて蓄えるという経済行動が不可欠である。経済学は、社会を構成する個人・企業及びその取引である市場の関係を研究する。本授業は、経済学の基礎を学ぶ。すなわち、消費者の身の周りに存在する様々な問題について、経済学的視点で考える。また、それぞれの行動原理を分析するフレームワークを提供し、その後、経済学的専門用語を正しく使用して経済的諸問題の分析に取り組める力を修得する。目標としては、経済学で自分が暮らしている世界を理解すること、経済へのより機敏な参加者になること、経済政策の可能性と限界をより深く理解すること、の3点がある。	
		経営学	経営学は企業を主な研究対象として、良いことを上手にすることを追求する学問である。この講義では、経営学のうち、経営管理論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理などに関連した基礎的な知識を確実にすることを目的とする。 具体的には、事例を通じて経営学に関する基本的な考え方を身につけるとともに、受講生が自らの言葉で経営学に関する要点を説明できるような応用力を身につけることを目的とする。	
		社会学A	社会とは、単なる個人の集まりであることを超えて、大きな力として私たちの生活や行動に影響を与える一方で、それらを受け止めた私たち一人ひとりの相互作用を通じて絶えず変化し続けるものでもある。そのため、本講義ではそもそも「社会とはどのようなものか」について考える。静的でもあり動的でもある社会に向き合いながら、最終的には、社会学の基礎理論を中心に、特に伝統的な研究領域における「身近な出来事、社会との関わりの中で理解し、社会学の用語や理論によって説明できるようになること」を本講義の目標とする。	メディア
		社会学B	社会とは、単なる個人の集まりであることを超えて、大きな力として私たちの生活や行動に影響を与える一方で、それらを受け止めた私たち一人ひとりの相互作用を通じて絶えず変化し続けるものでもある。そのため、本講義ではそもそも「社会とはどのようなものか」について考える。静的でもあり動的でもある社会に向き合いながら、最終的には、後期近代・現代社会に特徴的な領域における「身近な出来事、社会との関わりの中で理解し、社会学の用語や理論によって説明できるようになること」を本講義の目標とする。	メディア
		異文化コミュニケーション論 I	異文化コミュニケーションとは、多文化共生社会を実現するための知識でありスキルでもある。多文化と聞くと、我々の生活とは関係ないことのように感じるかもしれないが、実は日本も例外ではない。日本社会に暮らす外国人の割合は、すでに総人口の2%に達している。これからの時代、異なる文化的背景や歴史的背景を持つ人たちの集団同士が、それぞれの独自性を保ったまま、お互いの価値観を尊重して共存していくことが求められる。そこでこの授業では、世界と日本における様々な事例を読み解きながら、多文化共生に向けた異文化コミュニケーションには何が必要か考えていきたい。	
		異文化コミュニケーション論 II	異文化コミュニケーション論Iの内容をふまえて、さらに多文化共生社会に向けた考え方を学んでいく。海外留学する時、あるいは日本社会で暮らす外国出身の人々と協働する時、郷に入っては郷に従えの考え方をしている、本当の意味で心の通った共生関係を築くことは難しいだろう。そこで授業では、日本と世界における多民族社会の具体的な事例から、言語・非言語コミュニケーションといった新しい視点まで、様々なトピックを取り上げる。これらの異文化コミュニケーションに関わる知識とスキルをもとに、現代の必須課題であるダイバーシティ&インクルージョン(多様性とその活用)について考えていきたい。	
		メディア論	メディアのチャネルが多様になる中、文学だけでなくその周辺領域であるポップカルチャーが注目されている。この科目では、マンガやアニメといったポップカルチャーの表象がどのようにメディアと関わりながら形成されてきたのかを考察する。表象とは、それぞれの人の中に生まれたイメージそのものを含め、物事や概念、出来事などに何らかのイメージを与え、別の形にして表されたものを指す。そのイメージは、マンガ・アニメなどのメディアを媒介して具体的な形を与えられる。また、その具体的な形は、見る人によっても、社会や時代背景によっても形を変える。逆に、イメージを手掛かりにして、それらを生んだメディアから文化的な資源を研究することもできる。ポップカルチャーの表象を理解することで、文学の今日的な展開について考察を深める。	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人文学部国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	教育学	近年、教育現場をとりまく問題・課題には枚挙にいとまがない。不登校、非行、いじめ、学級内の人間関係、課外活動、アクティブラーニング、ICT (Information and Communication Technology) 教育、生涯学習、合理的配慮、教師の過重労働など様々なテーマが存在し、それぞれのテーマについてさらに多様な事例・現実がある。この授業では、昨今の教育現場における多様な課題を取り上げて履修者の社会生活の地続きな問題として「教育」について考える。授業を通して教育に関心を持ち、学術的に議論できるようにすることを旨とする。	
		文化人類学 I	文化人類学とは、多様性についての理解と対話の学問である。私たちの暮らしは、様々な形で世界とつながっており、相互に影響を与え合う関係にある。また、それぞれの国は社会的・文化的に異なった価値観やルールを持ち、それが時として誤解や対立を生むことがある。一方で、グローバル化が進む現代社会では、人・物・情報の世界的な流動性が高まり、その結果としてあらゆる局面で異文化接触が生じている。そこでこの授業では、文化人類学の理論と考え方に触れながら、世界と日本に見られる文化的多様性を現代的な視点で学んでいく。	
		文化人類学 II	文化人類学Iで学んだ理論と考え方をふまえて、さらに現代社会における人々の営みを多角的な視点から考える。言語・プレゼンテーション・家族といった基本事項から、音楽や映像などを中心とするポピュラーカルチャーにいたるまで、授業を通して様々なトピックを取り上げる。合わせて、調査者と調査者の関係のように、文化人類学そのものを俯瞰する議論も導入する。この分野における最新の研究成果も取り入れつつ、身近な話題を通して異文化に対する理解を深めていきたい。	
		自然科学概論 I	現代社会は科学技術を基盤として成立しているにもかかわらず、その科学自体について関心を持って暮らしている人は多くはない。講義では科学(理系科目)が苦手であったり関心が薄い人々に、「科学とは、どのような学問で、どのような性質を持つ営みなのか」をわかりやすく伝えることを第一の目的としている。この自然科学概論では、科学の発展の歴史をたどることから始め、科学という学問の性質の理解を進める。	
		自然科学概論 II	現代社会は科学技術を基盤として成立しているにもかかわらず、その科学自体について関心を持って暮らしている人は多くはない。講義では科学(理系科目)が苦手であったり関心が薄い人々に、「科学とは、どのような学問で、どのような性質を持つ営みなのか」をわかりやすく伝えることを第一の目的としている。この科目では、自然科学概論Iで学んだ科学という学問の性質を理解したうえで、科学と技術との違い、現代社会と科学の接点などについて事例を挙げながら理解を進める。	
		教養数学A	中高までの試験や受験のために義務的もしくは暗記科目のように数学と向き合ってきた学生に向けて、数学の世界の面白さや実社会との深い関連性を再発見してもらうことを目的とする。小中高の算数や数学を行きつ戻りつしながら、単なる問題の解法ではなく、その背後にある数学で一番大事な「物事を数学的に考える」ということを改めて考え直していく。この数学的に考えることの面白さに受講生全員が気付くことを目標とする。教養数学Aでは、代数学の分野を中心に数と式、数とグラフ、式で考えること、理由と意味を学ぶ。それらの考え方が身の回りの事象や法則に実用されている例、受講生の学部やコースで用いられている例なども考察していく。	
		教養数学B	中高までの試験や受験のために義務的もしくは暗記科目のように数学と向き合ってきた学生に向けて、数学の世界の面白さや実社会との深い関連性を再発見してもらうことを目的とする。小中高の算数や数学を行きつ戻りつしながら、単なる問題の解法ではなく、その背後にある数学で一番大事な「物事を数学的に考える」ということを改めて考え直していく。この数学的に考えることの面白さに受講生全員が気付くことを目標とする。教養数学Bでは、解析学と幾何学の分野を中心にグラフと図形、グラフと式、グラフと図形で考えること、理由と意味を学ぶ。それらの考え方が身の回りの事象や法則に実用されている例、受講生の学部やコースで用いられている例なども考察していく。	
		統計学 I	大学生活においては、学部学科を問わず色々な調査や研究を行いデータを集めるという機会が生じてくる。集めたデータをただ眺めているだけでは役に立たないため、データが持つ意味を理解し分析に生かすために統計学の知識を習得することが必要不可欠となる。この科目を通して他者を納得させることができる様に統計学の知識に基づいて的確にデータを示すことができるようになることを目的として様々な統計学の知識の習得を目指す。また、コンピューターを用いたデータ分析の実習も行い実践的で統計的な分析手法も学ぶ。統計学Iでは、特に、中高でも学んだ記述統計を中心に、身の回りにおける統計を具体例として統計学を学ぶための基礎知識となる統計量や統計学の概要を学ぶ。	メディア
		統計学 II	大学生活においては、学部学科を問わず色々な調査や研究を行いデータを集めるという機会が生じてくる。集めたデータをただ眺めているだけでは役に立たないため、データが持つ意味を理解し分析に生かすために統計学の知識を習得することが必要不可欠となる。この科目を通して他者を納得させることができる様に統計学の知識に基づいて的確にデータを示すことができるようになることを目的として様々な統計学の知識の習得を目指す。また、コンピューターを用いたデータ分析の実習も行い実践的で統計的な分析手法も学ぶ。統計学IIでは統計学Iで習得した基礎知識を基に、推測統計学の分野を中心に統計検定やデータ分析を行い統計学の実践的な知識を習得する。	メディア

授 業 科 目 の 概 要

(人文学部国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	教養 教育 科目	統計学Ⅲ	大学生生活においては、学部学科を問わず色々な調査や研究を行いデータを集めるといふ機会が生じてくる。集めたデータをただ眺めているだけでは役に立たないため、データが持つ意味を理解し分析に生かすために統計学の知識を習得することが必要不可欠となる。この科目を通して他者を納得させることができる様に統計学の知識に基づいて的確にデータを示すことができるようになることを目的として様々な統計学の知識の習得を目指す。また、コンピューターを用いたデータ分析の実習も行い実践的で統計的な分析手法も学ぶ。統計学Ⅲでは統計学ⅠとⅡで学んだ記述数理統計と推測統計学の知識を元に、多変量解析、頻度論、ベイズ統計学などの応用的な統計学による分析手法を習得する。各種の統計解析ソフトやツールを用いた実践的なデータ分析演習を行い、問題解決のためのデータ分析手法を学習する。	
		自然地理学Ⅰ	自然地理学について包括的内容を取り扱うことを念頭に、気候学、地形学、水文学、地生態学の各領域について、教科書を利用して概説的な内容について講義を行う。	
		自然地理学Ⅱ	自然地理学的領域の内、特に気候学と地形学の2領域について、「自然地理学Ⅰ」での履修内容を前提に、講義およびLMSを用いたアクティブラーニングの手法を用いて解説する。	
		環境学Ⅰ	環境学とは複合的な学問であり、どこに視点を置かによりさまざまな環境学が併存しうる。本講義は主に自然環境に関連した諸問題について扱ってゆく。自然環境は無機的環境だけで成り立つものではなく、多様な生物がその無機的環境と一体となって相互作用系を構成している。この理解は人間活動に起因する環境問題全体をとらえてゆく上で最も重要な視点である。この環境学Ⅰではこの自然環境の成り立ちや仕組みの理解を進める。	
		環境学Ⅱ	環境学とは複合的な学問であり、どこに視点を置かによりさまざまな環境学が併存しうる。本講義は主に自然環境に関連した諸問題について扱ってゆく。自然環境は無機的環境だけで成り立つものではなく、多様な生物がその無機的環境と一体となって相互作用系を構成している。この理解は人間活動に起因する環境問題全体をとらえてゆく上で最も重要な視点である。この科目では、環境学Ⅰで学んだ自然環境の成り立ちや仕組みの理解のもと、現代社会が抱える環境問題の諸相とその解決への取り組みについて理解を進める。	
		生活科学	本科目は、現代社会における日本や世界の食文化の特色を概観し、自然条件や気候だけでなく、そこに住む人々との関連性の中で育まれてきた実態を、食生活学を中心とする社会学・家政学・教育学等の総合領域分野の視点で理解を深める。食フィールドを対象とする地域は、都市社会だけでなく地域社会にも身近な場所が数多くある。本授業では、食文化論における基礎知識を理解したうえで、北陸の地域課題に着目しながら食の未来社会を創造する力を養う。日本の食文化を伝承すると共に、若者が未来社会に向け日本や地域の食文化を創造、発信できるよう地域貢献や地域創造のモデルケースを取り上げて学習を深める。	
		美学	「美学」という学問に初めて触れる学生を念頭に置き、主要な概念と思考法を紹介する。それによって学生が、美学に特徴的な知識と思考法を身につけ、芸術作品に対する判断に応用できるようになることを到達目標とする。例えば、①美学の基礎として、ライプニッツ、バウムガルテン、カントという3人の西洋古典の哲学者の思想などを提示し、「美」、「感性」、「芸術」といった美学の基礎的な概念を紹介する。また、②絵画、彫刻、音楽といった芸術作品を取り上げ、それらに対して美学の基礎的な概念から、どのように判断することができるかを提示する。	
		デザイン学A	デザインと科学のつながりを中心として扱い、デザインと認知科学、インダストリアルデザイン、プロダクトデザイン、ユーザインタフェースとユーザビリティ、ユーザエクスペリエンス、ソフトウェアデザイン、情報デザイン、あるいはナラティブメディア(ゲーム)デザインなどのテーマを取り上げる。身の回りにある製品やサービス(もの、こと)が、なぜそのデザインとなっているか、どのような社会的背景に依っているかなどについて受講生とともに考えていく。また、デザインの理解と表現の両方にわたって体験できる講義と演習を組み合わせ、デザイン思考を訓練するための授業を行う。	
		デザイン学B	身の回りにあふれている多様なデザインを発見し、その状態や法則や設計の意図を分析し、だれが、いつ、なんのために、あるいはどのようにデザインしたのかについて理解し、デザインの基本的な特徴や性質を学ぶ。また、相手に対してどのようなデザインで表現すれば理解を促進できるのかについても議論し、実際にデザインプロセスを享受する。さらに、デザイン思考とアート思考についても講述し、課題解決と創造性との間でどのような思考や推論が必要であるのかを理解しながら、現実存在するモノやコトのデザインを体験する。	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人文学部国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ウェルビーイングと健康A		WHOは健康を「well-being」として捉え、「単に疾病がない状態ということではなく、肉体的、精神的、そして社会的に、完全に満たされた状態」としている。本科目では、この「well-being」の概念を背景におきながら、「体力トレーニング」「生涯スポーツ」の実践と基礎的知識の理解をねらいとして授業を展開する。全ての人がその人にとって健康で幸福な生活を送る権利を有していることを認識し、スポーツの楽しさ、チームワーク、コミュニケーション能力について考えていく。「ウェルビーイングと健康A」では、実技（ゴール型等）、グループ課題（プレゼンテーション、グループ討議）を中心とした学習内容とする。	
	ウェルビーイングと健康B		WHOは健康を「well-being」として捉え、「単に疾病がない状態ということではなく、肉体的、精神的、そして社会的に、完全に満たされた状態」としている。本科目では、この「well-being」の概念を背景におきながら、「体力トレーニング」「生涯スポーツ」の実践と基礎的知識の理解をねらいとして授業を展開する。全ての人がその人にとって健康で幸福な生活を送る権利を有していることを認識し、スポーツの楽しさ、チームワーク、コミュニケーション能力について考えていく。「ウェルビーイングと健康B」では、実技（ネット型等）、グループ課題（プレゼンテーション、グループ討議）を中心とした学習内容とする。	
	スポーツとレジリエンスA		体力は身体的要素と精神的要素に大別され、それぞれが「行動体力（活動の基礎）」と「防衛体力（生存の基礎）」に分けられる。現在、スポーツ界で体力を語るときは身体的要素に焦点化されるケースが多いが、防衛体力として様々な（生理化学的、生物的、生理的、精神的）ストレスに対する抵抗力（レジリエンス）が明示されている。人間には様々なストレスに対応するために生体レベルでは外部の変化に対応して生体がある程度変容させていく性質（適応性）と変化に対して常に一定の良好な状態を保とうとする性質（恒常性）を有していると言われている。スポーツに親しむことは、ストレスに対するレジリエンスの機能を維持したり、強化することで知られている。そこで「スポーツとレジリエンスA」では、実技（ゴール型等）、グループ課題（プレゼンテーション、グループ討議）を中心とした学習内容とする。	
	スポーツとレジリエンスB		体力は身体的要素と精神的要素に大別され、それぞれが「行動体力（活動の基礎）」と「防衛体力（生存の基礎）」に分けられる。現在、スポーツ界で体力を語るときは身体的要素に焦点化されるケースが多いが、防衛体力として様々な（生理化学的、生物的、生理的、精神的）ストレスに対する抵抗力（レジリエンス）が明示されている。人間には様々なストレスに対応するために生体レベルでは外部の変化に対応して生体がある程度変容させていく性質（適応性）と変化に対して常に一定の良好な状態を保とうとする性質（恒常性）を有していると言われている。スポーツに親しむことは、これらレジリエンスの機能を維持したり、強化することで知られている。そこで「スポーツとレジリエンスB」では、実技（ネット型等）、グループ課題（プレゼンテーション、グループ討議）を中心とした学習内容とする。	
	健康・スポーツ科学論A		がん、脳卒中、心臓病は三大成人病とよばれ、国を挙げて原因の解明や予防策の検討がされてきた。近年になりその原因が生活習慣による内臓脂肪の蓄積がその主因であることがわかり、成人病は生活習慣病と言われるようになった。その生活習慣病の予防には運動（スポーツなど）が有効であることが明らかになっている。この授業では、健康の悪化に関する要因（心理的・生理的・社会的側面）、運動（スポーツなど）の健康促進効果、有効な運動（スポーツなど）の介入方法について考えていく。「健康・スポーツ科学論A」では、健康・スポーツ科学の基礎を学ぶことを目的とする。	
	健康・スポーツ科学論B		がん、脳卒中、心臓病は三大成人病とよばれ、国を挙げて原因の解明や予防策の検討がされてきた。近年になりその原因が生活習慣による内臓脂肪の蓄積がその主因であることがわかり、成人病は生活習慣病と言われるようになった。その生活習慣病の予防には運動（スポーツなど）が有効であることが明らかになっている。この授業では、健康の悪化に関する要因（心理的・生理的・社会的側面）、運動（スポーツなど）の健康促進効果、有効な運動（スポーツなど）の介入方法について考えていく。「健康・スポーツ科学論A」では、健康・スポーツ科学の応用を学ぶことを目的とする。	
	言語学		このコースでは、絶滅危惧言語の保護、男女共同参画、機械翻訳、人工知能、外国語教育、ヒューマンボンディング、文化スキーマなど、近未来の人間の言語に関わる幅広いトピックに取り組むことを奨励する。このコースの目的は、決められた事実を教えることではなく、これらのトピックについて自主的な思考を促すことである。言語は、個人、社会、国家、国際レベルにおいて影響を及ぼす複雑かつ多面的な問題である。このコースは、学生がこれらの複雑な問題に取り組むことを奨励するものでなければならない。	
	音声学入門		本コースは、ヒトにとりもつとも身近な音といえる「言語」、そして言語を形成する「音」について、日・英語を例に比較・分析する。第一に、言語の音の最小単位である「音素」、特に日・英語に特徴的な音素を、科学的な手法で理解する。次に、音素の連続が織りなす「音声変化」とは、音素の理解に基づけば誰でも簡単に生成できる、純粋に物理的な現象であることを学修する。さらに、ヒトという種に特有な言語の特徴を、音を生成する言葉の繋がりである「統語」や、音の内容を司る「意味」の観点から考察する。これらの一連の演習により、ヒトの発する音の連続が、「言語」として生成されるメカニズムを理解する。	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人文学部国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	教養 教育 科目	コミュニケーション論Ⅰ	ビジネス・恋愛・友人関係において、自分の気持や意見を、言葉を通して相手と通じ合える(／通じ合えない)のはなぜか。マス・メディアや広告が、視聴者や消費者に対して一定のイメージをつくりあげること成功する(／失敗する)のはなぜか。まずは、一般記号学を手すりとして、日常生活にある意味現象のメカニズムを捉えていく。次に、私たちはコミュニケーションを通して他者と結ばれると同時に切り裂かれることを改めて思い返し、コミュニケーションの成立がいかんして可能か、その条件を議論していく。続けて、より実際の場面と言語的コミュニケーションを捉えていく。発話者は、どう表現すれば相手に伝わるのか。受話者の側は、どういう見方や考え方をとれば、相手が表現した意味と自分が解釈した意味の間のギャップを埋められるのか。発話者と受話者の間で、表現と理解の合一をめざす態度、考え方、方法を、問題演習を通してトレーニングしていく。	
		コミュニケーション論Ⅱ	コミュニケーション論Ⅰでは、相手に理解される表現と、表現に歩み寄る理解を同時に視野に入れながら、意味をめぐる基礎的なことを学んだ。しかし、現実の他者は自分とは異なる知識・経験・文化的背景などをもち、本源的に、自分の想定や期待を裏切るかもしれない存在である。一方、コミュニケーションの当事者がおこなわれている状況は刻々と変化し、常に新しい場面を登場させる。本科目の主題は、無時間的に切り取られた場面ではなく、不測や突発が充ちる動的な過程において、いかにコミュニケーションを成立させるか、である。各自は相手の自由な理解や状況に応じて臨機応変に表現し、それを連携させ、さらに全体としての表現や理解をつくりださねばならない。そのための考え方や方法を学ぶために、クリティカルな「コミュニケーション不全」の事例を取り上げていく。受講生とともに一々の適否を問い、それを批判する。その繰り返しの中で、コミュニケーションの実践力を育てていく。	
		日本語上級ⅠA	アカデミックワークに必要な日本語力を身に付けることを目標に、主としてアカデミックスピーキングの能力の向上を目指し、フォーマルな話し言葉としての日本語の自然なリズムやイントネーションを習得する。また、初級レベルのディベートを行い、見解を組み立てるために必要な文献資料をリサーチし、エビデンスとして有効に活用することを学ぶ。更に、超級レベルの文法力を習得し、異文化としての日本や日本人についての理解を深める活動を通じ、日本語の4技能を総合的にレベルアップすることを旨とする。	
		日本語上級ⅠB	アカデミックワークに必要な日本語力を身に付けることを目標に、主としてアカデミックライティングの能力の向上を目指し、様々なテーマに関する資料を読み解き、学生が自ら日本語で発信するスキルを養成する。また、アカデミックワークとしてのプレゼンテーションを行うための書く力を獲得する。更に、超級レベルの文法力を習得し、自身の考えをまとめて話す力・他人の意見を聞き理解する力を養うとともに、プレゼンテーションに必要な口頭発表スキルを獲得し、ピアレビューを行う。	
		日本語上級ⅠC	アカデミックワークに必要な日本語力を身に付けることを目標に、主としてアカデミックスピーキングの能力の向上を目指し、フリーテーマによるディスカッションを行い、学生の考える力を引き出すとともに、異文化としての日本や日本人についての理解を深める契機とする。また、コラージュの手法を取り入れた語彙トレーニングにより、慣用的に使われる表現を多角的に学ぶ。更に、話し言葉と書き言葉の差異を理解したうえで、書き言葉レベルの語彙を増強し、言葉の世界を広げていく。	
		日本語上級ⅠD	アカデミックワークに必要な日本語力を身に付けることを目標に、主としてアカデミックライティングの能力の向上を目指す。具体的には、アカデミックワークとしての小論文の作成を行う。小論文のテーマに関する文献資料をリサーチし、引用する内容をエビデンスとして有効に活用する手法を学ぶ。口頭発表については、自己評価・ピアレビューを行う。また、資料を読み解き、資料から得られた情報を整理し、それを自身の見解としてまとめることにより、学生が自ら日本語で発信するスキルを養成する。	
		日本語上級ⅡA	日本語上級Ⅱにおいては、日本語上級Ⅰの授業で習得したアカデミックワークに必要な日本語力を伸長させるため、特に、書く力に重きを置き、アカデミックライティング、すなわち論文作成における作法の習得に特化する。この日本語上級ⅡAではキーワードに関するフリーディスカッションも行う。学生の考える力を引き出し、異文化としての日本や日本人についての理解を深める。更に、様々なパターントピックの文章を読み解くことにより、その各々に特徴的な表現について学び、それらを有効に用いて自身のアウトプットの手段とすることを目指す。口頭発表時におけるピアレビューにより、学生相互の学びの力も高めたい。	
		日本語上級ⅡB	日本語上級Ⅱにおいては、日本語上級Ⅰの授業で習得したアカデミックワークに必要な日本語力を伸長させるため、特に、書く力に重きを置き、アカデミックライティング、すなわち論文作成における作法の習得に特化する。この日本語上級ⅡBでは中級レベルのディベートも行い、見解を組み立てるために必要な文献資料をリサーチし、エビデンスとして有効に活用する手法を学ぶ。更に、日本語上級ⅡAとは異なるパターントピックの文章を読み解くことにより、その各々に特徴的な表現について学び、それらを有効に用いて自身のアウトプットの手段とすることを目指す。口頭発表時におけるピアレビューにより、学生相互の学びの力も高めたい。	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人文学部国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	教養 教育 科目	日本語リテラシーA	アカデミックライティングの習得を目指し、様々な言語活動を行う。具体的には、話し言葉と書き言葉の差異を理解し、論理的で説得力のある文章表現のスキルを身に付けることがゴールである。また、ブレンストリーミング、マッピング(グルーピング)等の論理的思考法を踏まえた文章化のプロセスを経ることにより、論理的に文章を展開するテクニックを学ぶ。小論文形式によるブックレポート作成をはじめ、パワーライティングの手法による4段階のパワーのレベルでライティングトレーニングを行うとともに、口頭発表のスキルも獲得し、自己評価・ピアレビューを行う。	
		日本語リテラシーB	アカデミックワークとしての小論文を作成するための書く力を身に付けることを目指す。具体的には、話し言葉と書き言葉の差異を理解したうえで、論理的な文章を書くために必要な文体・書式・構成・表現等を学び、学生自身がテーマを設定し、文献資料をリサーチし、エビデンスとして引用し、小論文を作成する。また、パワーライティングの手法による4段階のパワーのレベルで文章作成トレーニングを行うとともに、口頭発表のスキルも獲得し、自己評価・ピアレビューを行う。なお、公用文の書き方、用字用語について学ぶとともに、グループ活動を通じてピアレビューを行う。	
		中国語 I	一般的に「中国語」は、中国の総人口の9割以上を占める漢民族が使用している「漢語」(汉语)を指している。この「漢語」を習得すれば、中国やその他世界各国に暮らす華僑ともコミュニケーションをとることができる。中国語 I では、コミュニケーションとしての中国語力を身につけるために、発音を中心に、常用単語及び基本的な文法知識を堅実に学習する。中国語の基本的な音節構造、文法構造を理解した上で、簡単な表現ができるようにしっかりとしたコミュニケーション基礎づくりをする。	
		中国語 II	中国語で会話ができれば、世界中でたくさんの人たちとコミュニケーションを楽しめる。この中国語 II では、中国語 I で身につけた発音、単語、文法に関する基礎知識を踏まえ、一層複雑な文法、会話に挑み、読み、聞き、書きをバランスよく学習し、様々な生活場面で必要なコミュニケーション能力を磨く。日常生活に必要な実用的な中国語を身につけることによって、表現力や語彙力、観察力、読解力を高めながら、中国語学習のステップアップを図る。	
		韓国語 I	韓国語 I は、ハングルという文字の学習、基礎的な韓国語の文法事項(二つの「です・ます」体の活用、否定文など)を習得、そして簡単な文章の理解および基本会話を授業の目標とする初級コースである。ハングル文字を見て発音できる、単文を中心に簡単な構文を理解し400語ほどの語彙を使って作文ができる、そして身近な話題について話すことができるなどを学生の学修目標とする。これらの韓国語の学習を通して日本語との共通点および相違点について気づいてもらい、日本語という母語をより客観的に考えられる力を養う。また、この様な対照言語学的な思考力は他言語の学習にも応用できるものである。映画・音楽・料理などの様々なジャンルを通じて、学習者の動機を向上させると共に韓国の文化や社会への理解を深めてもらう。	
		韓国語 II	韓国語 II は、韓国語 I に引き続き、基礎的な韓国語の文法事項(数詞・位置関係・過去形の活用・希望・可能など)を習得しながら簡単な文章を理解できる力を養う初級コースである。基本文型を理解し、1000語ほどの語彙を使って文章の解釈ができる、簡単な構文を理解し、1000語ほどの語彙を用いて文を作ることができる、そして身近な話題について話すことができるなどを学生の学修目標とする。他方、これらの韓国語の学習を通して日本語との共通点および相違点について気づいてもらい、日本語という母語をより客観的に考えられる力を養う。この様な対照言語学的な思考力は他言語の学習にも応用可能である。さらに、映画・音楽・料理など様々なジャンルを通じて、学習者の学習能力を向上させると共に韓国の文化や社会への理解を深めてもらう。	
		ドイツ語 I	ドイツ語 I においてはアルファベットやあいさつ、典型的な日常会話を中心に基礎的なリーディング、ライティング、スピーキングと発音、リスニングのスキルを学習しながら、ドイツ語圏の国々の社会や文化について知識を増やしていく。また、ドイツ語検定5級レベルの学力に段階的に達するために、主にオーラルコミュニケーションや基本語彙の習得を重視する。日本とドイツの違いや交流にも目を向ける。	
ドイツ語 II	ドイツ語 I で学んだことを基にペアワークやグループワーク、ロールプレイングなどを取り入れて、リーディング、ライティング、スピーキングと発音、リスニングのスキルの向上を図りながら、ドイツ語検定5級及び4級合格レベルの語彙力を含めた学力を目指す。また、ドイツに興味を持つようにドイツ語圏の国々の社会や経済、文化、それに加えてヨーロッパの中のドイツの役割について情報や知識を増やす。日本とドイツの違いや交流にもさらに詳しく目を向ける。			

**授 業 科 目 の 概 要**

(人文学部国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	教養 教育 科目	フランス語Ⅰ	フランスの文化や地理に触れながらフランス語の基礎を学びたい人のための、初級コースである。この授業では、国(国籍と言語)、職業、余暇活動(芸術、スポーツなど)、100までの数字に関する、基本的な語彙を紹介する。また、肯定的、否定的を問わず、基本的な発音をするために必要な文法を学び、インフォーマル、スタンダード、フォーマルとさまざまなスタイルで質問をすることができるようになる。国際音声記号を用いて、フランス語の母音の発音のニュアンスを学び、フランス語のスペルを音読するやり方を学ぶ。リエゾン、エリシオン、アンジュスマンなど、流暢な発音を身につけるための基本的な指導を行う。またこの授業により、職業、住所、年齢、好き嫌いなどを表現するさまざまなコミュニケーション行為の能力が身につくことが期待される。	
		フランス語Ⅱ	フランス語Ⅰに引き続き、フランスの文化や地理に触れながらフランス語の基礎を学びたい人のための、初級コースである。この授業では、国(国籍と言語)、職業、余暇活動(芸術、スポーツなど)、100までの数字に関する、基本的な語彙を紹介する。また、肯定的、否定的を問わず、基本的な発音をするために必要な文法を学び、インフォーマル、スタンダード、フォーマルとさまざまなスタイルで質問をすることができるようになる。国際音声記号を用いて、フランス語の母音の発音のニュアンスを学び、フランス語のスペルを音読するやり方を学ぶ。リエゾン、エリシオン、アンジュスマンなど、流暢な発音を身につけるための基本的な指導を行う。またこの授業により、職業、住所、年齢、好き嫌いなどを表現するさまざまなコミュニケーション行為の能力が身につくことが期待される。	
		スペイン語Ⅰ	本授業では、スペイン語初心者を対象にスペイン語圏の食、挨拶、音楽、映画、スポーツなどのさまざまな慣習や文化に触れながらスペイン語の基礎を学ぶことを目的とする。スペイン語で簡単な読み書きができるよう文法の基礎や語彙を学び、既習の語彙や文法を使って相手からの質問を理解し、適切に答えたり自己表現したりすることを身につける。授業では積極的にペアワークやグループワークを取り入れ、スペイン語での簡単な意見交換や基本的なスペイン語表現の練習を試みる。それを通して、スペイン語で書く、話す、聞くという基本的技能を身につけることを目指す。	
		スペイン語Ⅱ	本授業では、スペイン語Ⅰで学んだ基本的技能や知識を復習しながら活用し、それを応用できる力を習得することを目的とする。また、スペイン語圏の食文化、現代社会、音楽、映画、スポーツなどの様々なスペイン語に触れながらスペイン語を学び、スペイン語に対してさらなる理解を深める。自分の考え方を正確に相手に伝える語学力を身につけ、スペイン語圏における日常生活で幅広く使えるスペイン語を学習する。授業ではペアワークやグループワークを積極的取り入れ、簡単なディスカッションや映画や社会問題などのトピックについて自由に意見交換できるための語学力を身につけることを目指す。	
		ロシア語Ⅰ	ロシア語を学ぶことにより言葉だけでなく背後にあるロシアの考え方や生活習慣も理解できるようになる。日本語にも英語にも似ていないロシア語を覚えるための工夫や関連づけも紹介する。ロシア語の表現や文章のつくり方を理解することを通して、母国語である日本語を客観的に見直すこともできるようになる。また、ロシア語を取得すれば、同じスラブ系のポーランド語、チェコ語、ウクライナ語などの学習は容易になる。	
		ロシア語Ⅱ	ロシア語を学ぶことにより言葉だけでなく背後にあるロシアの考え方や生活習慣も理解できるようになる。日本語にも英語にも似ていないロシア語を覚えるための工夫や関連づけも紹介する。ロシア語の表現や文章のつくり方を理解することを通して、母国語である日本語を客観的に見直すこともできるようになる。また、ロシア語を取得すれば、同じスラブ系のポーランド語、チェコ語、ウクライナ語などの学習は容易になる。本科目はロシア語Ⅰの続編で会話を通してロシア語の基礎を身につける。	
		日本文学A	日本文学は個別の作品論として展開される。日本文学Aにおいては日本古典文学の伝統的な韻文形式である俳句の世界について学ぶ。俳句は、室町時代に流行した連歌の遊戯性から庶民性を高めた文芸である俳諧を始原とする。江戸時代前期に松尾芭蕉が登場し、その芸術性を高めた。特に、単独での鑑賞に堪える自立性の高い発句が後世、五七五の十七音の定型で季語を詠み込む俳句の源流となった。本授業では紀行文の名作『おくのほそ道』を解釈・鑑賞しながら俳聖芭蕉の旅路を追体験し、名句を元にした俳句の創作も試みる。	メディア
		日本文学B	日本文学は個別の作品論として展開される。日本文学Bにおいては日本古典文学の伝統的な韻文形式である和歌の世界について学ぶ。和歌は万葉時代に成立した三十一音の定型による自由主題の叙情詩とされるが、現代でも短歌の愛好者は絶えることなく、新聞の文芸欄にはその選評が掲載される。また、日本文学を学ぶ外国人の教材となり翻訳されることも多いが、一般的に親しまれている作品として、藤原定家撰『百人一首』を取り上げ、解釈・鑑賞しながら作品世界の感動を時空を超えて追体験するとともに、五七五七七の韻律による創作活動に取り組み、学生相互にその鑑賞文を作成することにより共有する。	メディア

**授 業 科 目 の 概 要**

(人文学部国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	英米文学Ⅰ		まずイギリスという国についての概略を理解したり、イギリス王室関連の様々なエピソードを知ったりして、イギリスに対しての知見を増やす。それからイギリス小説史の概略を学んだあと、世界三大悲劇の一つと評されることもある『嵐が丘』(1847)を取り上げる。作者のエミリー・ブロンテがこの一作のみによって世界文学史に不滅の名を残すことになったほどの名作である。『嵐が丘』のストーリーを追いながら国や時代を超えて存在する普遍的な人間の愛や憎しみや情念の描かれ方を鑑賞し、そして批評家たちがこの小説をどのように分析・解釈してきたかを解説する。それによって文学作品の多様な解釈の方法を身につけていく。	
	英米文学Ⅱ		英米文学Ⅰで『嵐が丘』のような人間存在の根源に迫るような文学を味わったあとは、おもむきの異なる軽いタッチの作品に接する。文学は、書かれた物語の背景となる社会や文化を学び理解する良い手段ともなる。この授業で取り上げるジェイン・オースティンの代表作『高慢と偏見』(1813)を読むと、当時のイギリスの階級制度や社会における女性の地位がよく分かる。物語で描かれる5人姉妹の恋愛や結婚の様子を通して、当時の女性の恋愛観、結婚観、そして階級意識が読み取れる。また作品に関連して、イギリス美術やカントリー・ハウスや庭園などの知識・理解も深める。文学作品鑑賞を通して異文化理解を促進し、それによって視野の拡大や多様性の受容へとつなげていく。	
	英米文学Ⅲ		英米文学Ⅰ、Ⅱで取り上げたカントリーサイドを舞台にした『嵐が丘』と『高慢と偏見』とは異なり、チャールズ・ディケンズの『大いなる遺産』(1860-61)は大都市ロンドンを舞台にしている。天才的ストーリーテラーと呼ばれるディケンズはイギリス初のベストセラー作家ともいえるが、ディケンズの場合面白い物語を作るのみならず、小説を書くことによって社会で見過ごされている重要な問題に対して人々の意識を向けさせ、それらを改善していくよう促すという役割も担っていた。もともとジャーナリストとしてキャリアを出発したディケンズは、社会改革者としての顔もあったのだ。授業では社会と文学の関係について考察し、それに関連してイギリスの政治やメディアについても扱うことにする。	
	海外研修Ⅰ		本学では、グローバル化が進む世界の中で、主要な共通言語である英語や諸外国語で様々な地域や世界の文化や社会について広く学び、自らが暮らす地域の文化を基盤に世界各地の人びとの暮らしや価値観を理解するため、世界各地の高等教育機関等での教育を留学によって実現できるように推進している。また、留学による異文化体験を通して地域の文化や生活について理解を深めたり、世界の多様な人々と対話をして自国や地域の文化を発信するコミュニケーション力を身につけたり、自国を含む世界各地の文化に触れ、異なる生活様式や価値観を理解したりしながら、海外の高等教育機関で多様な学術分野に触れてくる機会を創出している。こうした海外での多様な教育機会をできるだけ可視化するため、本科目は、諸外国の高等教育機関で取得してきた多様な学術分野の科目の単位をできる限り認定可能とすることを担保するための科目としてI-Xで設置される。	
	海外研修Ⅱ		本学では、グローバル化が進む世界の中で、主要な共通言語である英語や諸外国語で様々な地域や世界の文化や社会について広く学び、自らが暮らす地域の文化を基盤に世界各地の人びとの暮らしや価値観を理解するため、世界各地の高等教育機関等での教育を留学によって実現できるように推進している。また、留学による異文化体験を通して地域の文化や生活について理解を深めたり、世界の多様な人々と対話をして自国や地域の文化を発信するコミュニケーション力を身につけたり、自国を含む世界各地の文化に触れ、異なる生活様式や価値観を理解したりしながら、海外の高等教育機関で多様な学術分野に触れてくる機会を創出している。こうした海外での多様な教育機会をできるだけ可視化するため、本科目は、諸外国の高等教育機関で取得してきた多様な学術分野の科目の単位をできる限り認定可能とすることを担保するための科目としてI-Xで設置される。	
	海外研修Ⅲ		本学では、グローバル化が進む世界の中で、主要な共通言語である英語や諸外国語で様々な地域や世界の文化や社会について広く学び、自らが暮らす地域の文化を基盤に世界各地の人びとの暮らしや価値観を理解するため、世界各地の高等教育機関等での教育を留学によって実現できるように推進している。また、留学による異文化体験を通して地域の文化や生活について理解を深めたり、世界の多様な人々と対話をして自国や地域の文化を発信するコミュニケーション力を身につけたり、自国を含む世界各地の文化に触れ、異なる生活様式や価値観を理解したりしながら、海外の高等教育機関で多様な学術分野に触れてくる機会を創出している。こうした海外での多様な教育機会をできるだけ可視化するため、本科目は、諸外国の高等教育機関で取得してきた多様な学術分野の科目の単位をできる限り認定可能とすることを担保するための科目としてI-Xで設置される。	
	教養 教育 科目			

**授 業 科 目 の 概 要**

(人文学部国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	教養 教育 科目	海外研修Ⅳ	本学では、グローバル化が進む世界の中で、主要な共通言語である英語や諸外国語で様々な地域や世界の文化や社会について広く学び、自らが暮らす地域の文化を基盤に世界各地の人びとの暮らしや価値観を理解するため、世界各地の高等教育機関等での教育を留学によって実現できるように推進している。また、留学による異文化体験を通して地域の文化や生活について理解を深めたり、世界の多様な人々と対話をして自国や地域の文化を発信するコミュニケーション力を身につけたり、自国を含む世界各地の文化に触れ、異なる生活様式や価値観を理解したりしながら、海外の高等教育機関で多様な学術分野に触れてくる機会を創出している。こうした海外での多様な高等教育機会をできるだけ可視化するため、本科目は、諸外国の高等教育機関で取得してきた多様な学術分野の科目の単位をできる限り認定可能とすることを担保するための科目としてI-Xで設置される。	
		海外研修Ⅴ	本学では、グローバル化が進む世界の中で、主要な共通言語である英語や諸外国語で様々な地域や世界の文化や社会について広く学び、自らが暮らす地域の文化を基盤に世界各地の人びとの暮らしや価値観を理解するため、世界各地の高等教育機関等での教育を留学によって実現できるように推進している。また、留学による異文化体験を通して地域の文化や生活について理解を深めたり、世界の多様な人々と対話をして自国や地域の文化を発信するコミュニケーション力を身につけたり、自国を含む世界各地の文化に触れ、異なる生活様式や価値観を理解したりしながら、海外の高等教育機関で多様な学術分野に触れてくる機会を創出している。こうした海外での多様な高等教育機会をできるだけ可視化するため、本科目は、諸外国の高等教育機関で取得してきた多様な学術分野の科目の単位をできる限り認定可能とすることを担保するための科目としてI-Xで設置される。	
		海外研修Ⅵ	本学では、グローバル化が進む世界の中で、主要な共通言語である英語や諸外国語で様々な地域や世界の文化や社会について広く学び、自らが暮らす地域の文化を基盤に世界各地の人びとの暮らしや価値観を理解するため、世界各地の高等教育機関等での教育を留学によって実現できるように推進している。また、留学による異文化体験を通して地域の文化や生活について理解を深めたり、世界の多様な人々と対話をして自国や地域の文化を発信するコミュニケーション力を身につけたり、自国を含む世界各地の文化に触れ、異なる生活様式や価値観を理解したりしながら、海外の高等教育機関で多様な学術分野に触れてくる機会を創出している。こうした海外での多様な高等教育機会をできるだけ可視化するため、本科目は、諸外国の高等教育機関で取得してきた多様な学術分野の科目の単位をできる限り認定可能とすることを担保するための科目としてI-Xで設置される。	
		海外研修Ⅶ	本学では、グローバル化が進む世界の中で、主要な共通言語である英語や諸外国語で様々な地域や世界の文化や社会について広く学び、自らが暮らす地域の文化を基盤に世界各地の人びとの暮らしや価値観を理解するため、世界各地の高等教育機関等での教育を留学によって実現できるように推進している。また、留学による異文化体験を通して地域の文化や生活について理解を深めたり、世界の多様な人々と対話をして自国や地域の文化を発信するコミュニケーション力を身につけたり、自国を含む世界各地の文化に触れ、異なる生活様式や価値観を理解したりしながら、海外の高等教育機関で多様な学術分野に触れてくる機会を創出している。こうした海外での多様な高等教育機会をできるだけ可視化するため、本科目は、諸外国の高等教育機関で取得してきた多様な学術分野の科目の単位をできる限り認定可能とすることを担保するための科目としてI-Xで設置される。	
		海外研修Ⅷ	本学では、グローバル化が進む世界の中で、主要な共通言語である英語や諸外国語で様々な地域や世界の文化や社会について広く学び、自らが暮らす地域の文化を基盤に世界各地の人びとの暮らしや価値観を理解するため、世界各地の高等教育機関等での教育を留学によって実現できるように推進している。また、留学による異文化体験を通して地域の文化や生活について理解を深めたり、世界の多様な人々と対話をして自国や地域の文化を発信するコミュニケーション力を身につけたり、自国を含む世界各地の文化に触れ、異なる生活様式や価値観を理解したりしながら、海外の高等教育機関で多様な学術分野に触れてくる機会を創出している。こうした海外での多様な高等教育機会をできるだけ可視化するため、本科目は、諸外国の高等教育機関で取得してきた多様な学術分野の科目の単位をできる限り認定可能とすることを担保するための科目としてI-Xで設置される。	
		海外研修Ⅸ	本学では、グローバル化が進む世界の中で、主要な共通言語である英語や諸外国語で様々な地域や世界の文化や社会について広く学び、自らが暮らす地域の文化を基盤に世界各地の人びとの暮らしや価値観を理解するため、世界各地の高等教育機関等での教育を留学によって実現できるように推進している。また、留学による異文化体験を通して地域の文化や生活について理解を深めたり、世界の多様な人々と対話をして自国や地域の文化を発信するコミュニケーション力を身につけたり、自国を含む世界各地の文化に触れ、異なる生活様式や価値観を理解したりしながら、海外の高等教育機関で多様な学術分野に触れてくる機会を創出している。こうした海外での多様な高等教育機会をできるだけ可視化するため、本科目は、諸外国の高等教育機関で取得してきた多様な学術分野の科目の単位をできる限り認定可能とすることを担保するための科目としてI-Xで設置される。	

授 業 科 目 の 概 要

(人文学部国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	海外研修X		<p>本学では、グローバル化が進む世界の中で、主要な共通言語である英語や諸外国語で様々な地域や世界の文化や社会について広く学び、自らが暮らす地域の文化を基盤に世界各地の人びとの暮らしや価値観を理解するため、世界各地の高等教育機関等での教育を留学によって実現できるように推進している。また、留学による異文化体験を通して地域の文化や生活について理解を深めたり、世界の多様な人々と対話をして自国や地域の文化を発信するコミュニケーション力を身につけたり、自国を含む世界各地の文化に触れ、異なる生活様式や価値観を理解したりしながら、海外の高等教育機関で多様な学術分野に触れてくる機会を創出している。こうした海外での多様な教育機会をできるだけ可視化するため、本科目は、諸外国の高等教育機関で取得してきた多様な学術分野の科目の単位をできる限り認定可能とすることを担保するための科目としてI-Xで設置される。</p>	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人文学部国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	キャリア 教育 科目	キャリア入門Ⅰ	キャリア入門Ⅰ・Ⅱを通じて、いまこの自分とこれからの自分の在り方について考える。キャリア入門Ⅰの授業では、キャリアデザインの基本的な理論の理解と自己理解を進める。大学4年間の過ごし方、社会への適応と抵抗の力を養うことを目的としている。キャリア入門の授業を通じて、キャリアデザインの考え方を学び、大学生活とその後のキャリアが連続的なものであることを理解し、現在の大学生活について考える機会として取り組むことが期待される。	
		キャリア入門Ⅱ	キャリア入門Ⅰ・Ⅱを通じて、いまこの自分とこれからの自分の在り方について考える。キャリア入門Ⅱの授業では、労働市場など社会の状況について学び、社会デザインの方法を学ぶことで適応と抵抗の視点から、新聞や実務家の話を通じて学ぶ。自己の生き方・在り方を考えるとともに、社会の状況を知り、社会に適合することと同時に、抵抗のために必要な知識を学び、大学生活とその先のキャリアを結び付けることを意識できるようになることを目標としている。	
		キャリアプランニングⅠ	労働とは、単なる金銭獲得だけでなく、自己の能力を発揮して成長しつつ社会の一端を担うことである。しかしながら、労働は「契約」に基づく相互関係であり、互いに権利と義務を負っているがその認識は乏しい。また、社会には一定のルール（一般的な社会マナー）があり、これを遵守しない場合、社会の構成員としてのキャリア構築が難しくなる。本講座は、これから社会に羽ばたこうとする人のために、「労働・キャリアデザイン・マナー・ファイナンシャル」の4つを柱としてキャリアの基礎の形成を目指し、生涯にわたり自分らしく充実した人生をデザインできるようにするものである。なお、キャリアプランニングⅠでは、働くうえで知っておきたい労働法と働き方、人間関係の基礎である言葉遣い（ビジネスマナー）中心に扱う。ビジネスマナーについては、実践力を養うため演習を積極的に取り入れる。	
		キャリアプランニングⅡ	労働とは、単なる金銭獲得だけでなく、自己の能力を発揮して成長しつつ社会の一端を担うことである。しかしながら、労働は「契約」に基づく相互関係であり、互いに権利と義務を負っているがその認識は乏しい。また、社会には一定のルール（一般的な社会マナー）があり、これを遵守しない場合、社会の構成員としてのキャリア構築が難しくなる。本講座は、これから社会に羽ばたこうとする人のために、「労働・キャリアデザイン・マナー・ファイナンシャル」の4つを柱としてキャリアの基礎の形成を目指し、生涯にわたり自分らしく充実した人生をデザインできるようにするものである。なお、キャリアプランニングⅡでは、ファイナンシャルプラン、及びビジネス文書を中心としたマナーを扱う。ビジネスマナーについては、実践力を養うため演習を積極的に取り入れる。	
		チームビルディング	この科目は、チームを組み、人と共同して課題に取り組む際に必須のコミュニケーションスキルを習得と、チームビルディングのために求められる能力の取得を目指している。座学講義形式だけでなく学生の参加によるアクティブラーニングの形式をとることにより実践、実社会に近いグループディスカッションを実施する。グループディスカッションの基本的流れを理解し、初対面で面識のないメンバーの中においても速やかに人間関係を構築して共に課題に取り組み、チームとしての結論を出し、発表を行うことを繰り返してチームビルディングの実践力を育てていく。	
		プレゼンテーションスキルズ	この科目は、コミュニケーションのなかでも人前で話すチカラ、プレゼンテーション能力に特化した授業である。One to Oneコミュニケーションではなく、多くの人前でプレゼンテーションをして「伝える力」を学ぶ。スキルとしてPREP方式（Point, Reason, Example, Point）やピラミッドストラクチャーなど論理的なプレゼンテーションの組立やマンダラート、マインドマップなどの思考技術を使つてのシナリオ作りをおおして、プレゼンテーションの実践力を育てていく。	
		業界課題研究Ⅰ	石川県の代表的企業に対して「自分ならどのようなコンサルテーション（提言）をするか」の観点のもと、業界研究・企業研究を行う。実際に企業に接することで、表面的なイメージや思い込みを排除し、真に自己判断・自己選択した職業選択ができることを目的としている。業界課題研究Ⅰでは、不動産業・製造業から各1社を招いて研究を深める。卒業生がいる企業を招へいする予定で、学生諸君にとって身近に感じられるであろう。	
		業界課題研究Ⅱ	石川県の代表的企業に対して「自分ならどのようなコンサルテーション（提言）をするか」の観点のもと、業界研究・企業研究を行う。実際に企業に接することで、表面的なイメージや思い込みを排除し、真に自己判断・自己選択した職業選択ができることを目的としている。業界課題研究Ⅱでは、卸売業・IT業から各1社を招いて研究を深める。できる限り卒業生がいる企業を招へいする予定で、学生諸君にとって身近に感じられるであろう。	

授 業 科 目 の 概 要

(人文学部国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	キャリア実践演習		インターンシップ生として、企業活動の実際の現場を知ることは、自分の仕事でのやりがいや適性を検討し、就職活動時に職業選択を行うために非常に役立つ経験となる。大学と提携する協定先で5日以上での対面のインターンシップに参加し、キャリア系科目の中で成果報告を行うことがプログラムとして設計されている。インターンシップに参加するだけでなく、その活動内容で自分が気が付いた事、今後取り組もうと思うことなどの振り返りを重視する。大学で学ぶ講義の内容が現場ではどのように活用されているかを認識し、今後の学習に活かすことが期待される。	集中講義

**授 業 科 目 の 概 要**

(人文学部国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	教職科目			
	教職入門 (中等)		本授業は、教職の意義、教員の役割、職務内容等に関する理解を深め、教師という職業を多角的に見る目を養うことを目的とする。教師は日々、どのような仕事を行い、どのような問題を抱え、それらにどのように対処しているのかを中心に考察する。授業では、グループ・ディスカッションやビデオ視聴を積極的に取り入れながら、受講者が教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について理解を深めるとともに、教職への意欲を高め、自らの適性を判断し、今後の進路選択を考える手がかりとすることを旨とする。	
	教育学概論Ⅰ (中等)		本授業は、教育についての基礎的知識(歴史、思想、制度、内容)を習得し、自らの考えを確立していくための基礎をつくることを目的とする。教育という営みは、生まれたときから老人に至るまで、意識的・無意識的に行われる広い射程をもつ活動である。しかし、各人の教育観は、自ら受けてきた教育やマスメディアを通じて得られる情報に依存して形成されている。そこで授業では、こうした個人の教育観を相対化し、「教育とは何か」をあらためて問い直す。	
	教育学概論Ⅱ (中等)		本授業は、教育学概論Ⅰ(中等)で学んだ教育の基礎的知識(歴史、思想、制度、内容)を用いて、自らの考えを確立していくために現代社会における教育課題に焦点を当てて考察することを目的とする。それにより、教育という営みを、子ども、家庭、学校、社会のなかで捉えなおし、これからの教育に求められる在り方を自ら構想し、そのために行動できるようになることが授業の最終的な目的である。本授業では、グループ・ディスカッションやICT等を積極的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」による「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。	
	特別支援教育 (中等)		「教育の基礎的理解に関する科目」の中の、中学校及び高等学校の教員免許取得のための必修科目である。教職を目指す学生が、特別な支援が必要な児童生徒の教育的ニーズ、教育制度、及び教師として可能な支援について理解することを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (18 新谷 洋介/8回) 特別の支援を必要とする児童生徒の障害の特性及び心身の発達 (46 柳川 公三子/7回) 特別の支援を必要とする児童生徒に対する教育課程や支援の方法 特別の教育的ニーズのある児童生徒の学習上又は生活上の困難とその対応	オムニバス方式
	教育心理学Ⅰ (中等)		近年、教育現場をとりまく問題・課題には枚挙にいとまがない。不登校、非行、いじめ、発達障害、学級内の人間関係、課外活動、アクティブラーニング、ICT (Information and Communication Technology) の活用など様々なテーマが存在し、それぞれのテーマについてさらに多様な事例・現実的な問題がある。そのため、教育に関わるといことは、様々な事例やテーマに対して、それぞれの状況の理解、背景の推測をし、時には試行錯誤や難しい判断を求められることもある。教育現場の現代的課題について関心を持つ時、その理解を助け、多面的な視点から背景を考えることを促すのは思考の土台になる知識である。この授業では、教育心理学という領域から、この知識を獲得することを旨とする。様々な心理学的観点から、乳幼児から児童・青年期の心身の発達や学習・教育の過程などについて学ぶ。心身の発達および他者との関わりについて基礎的な理論を学びながら、近年の教育問題や児童・生徒との関わり方について考え問いを発することができるようになることを旨とする。	
	教育心理学Ⅱ (中等)		教育現場をとりまく問題・課題は多様であり、その検討には様々な研究・実践が行われている。この授業では教育を批判的に捉えるために様々な知見について学ぶ。この授業では心身の発達および他者との関わりとしての教育・学習活動について基礎的な理論から発展的な理論まで広く学びながら、近年の教育問題や児童・生徒との関わり方について問い直すことができるようになることを旨とする。この過程を通して教育心理学の知識だけでなく、その考え方を身につけて教育・学習を多面的・批判的に考える態度を獲得する。	
	生徒・進路指導論 (中等)		生徒指導・進路指導は学習指導に並び、学校教育において重要な教育活動に位置づけられる。生徒指導は個々の生徒の人格・人権を尊重し生徒個人の発達を促すものであり、進路指導は生徒の将来や社会との接続に対しての適応を促すものである。これらを学校教育の中で指導していくためには、青年期における心身の発達やキャリア発達について基礎的な知識を有し、指導にあたっての諸問題について生徒と向き合うための態度と技能を備えることが求められる。この授業では青年期の発達およびキャリア発達について基礎的な知見を学ぶことで、生徒指導・進路指導の基盤となる知識を得る。その上で、現在の教育や社会が直面している問題について、生徒指導・進路指導という視点から議論することで、生徒指導・進路指導の意義と限界を学ぶ。	
道徳教育の理論と方法 (中等)		本授業では、道徳教育に関する基礎知識を学び、道徳科の内容項目と関連する道徳的価値を、多面的、多角的に捉え直すことをめざす。教師として道徳教育に携わるには、生徒に既存の価値・規範を教え込むのではなく、生徒自身が答えの定まらない問いに向き合い、自らの課題として引き受けられるよう働きかけることが求められる。そうした学習作りに向け、本授業では、生徒の道徳性の発達に関する理論や道徳教育の歴史と思想、実践的な指導案作成の方法や道徳科授業の構成の仕方について学ぶ。受講生が「特別の教科 道徳」について理解を深め、自身の見方、考え方をもって授業に臨むことができるよう工夫したい。		

**授 業 科 目 の 概 要**

(人文学部国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	教 職 科 目	教育相談の理論と方法Ⅰ (中等)	学校教育の場面では、いずれの時代にもそれぞれの世相を反映した様々な課題が生じている。生徒の行動に由来する課題もあれば、学校という構造が抱える問題や社会の在り方を問う命題となる現象まで多様である。この授業ではまず教育相談の理論について基礎的な知識を学ぶことで、生徒個々人の心理的特徴や教育的課題を適切に捉えることの重要性を理解する。また具体的な教育課題について理解を深めることにより、相談時に留意すべきこと相談時の態度や心構えを身に着ける。また、これらを用いて言語的・非言語的を問わず自身の在り方について、批判的に問い直して改善を続けられる主体性の向上を目指す。以上により、生徒の発達や適応を支援する上での基礎的知識・態度の獲得および向上を目標とする。	
		教育相談の理論と方法Ⅱ (中等)	教育相談は生徒が学校を安全・安心に過ごせる場所として認識し、教師との信頼関係のもとに発達していく上で重要な役割を果たす。しかし、そのためには生徒の人格の尊重とともに社会や学校が抱えている構造的な問題への批判的な眼差しが求められる。この授業では教育相談を通して、学校の在り方、自己の在り方を見直しながらいかに生徒に接していくべきかを繰り返し問い直す。教師―生徒間のコミュニケーションについて、その役割や影響を実践的に検討する。これにより、教育相談に関する知識を応用し、生徒の発達や適応を支援するための態度の獲得と、社会や教育の在り方を問い直す批判的視座の獲得を目標とする。	
		教育社会学Ⅰ (中等)	教育、特に学校教育は多くの人にとって身近でよく知っているものであろう。そのために、誰もが「教育」に対してそれぞれの「当たり前」や「常識」から考えようとする。しかし、教育にまつわる様々な現象や価値観は多様であり、これを批判的に考えるためには自己の経験や常識を相対化する必要がある。それを助けるのが知識や理論であり、この授業では学歴や階層といった教育社会学の基本的な知識や考え方を身につけることで教育の「当たり前」や「常識」を捉え直すことを目指す。	
		教育社会学Ⅱ (中等)	この授業では教育というものそのもの、あるいは現代において教育の「あるべき姿」について、社会との関わりから捉え直すことを目指す。そのために、教育と社会の両者をつなぐ知識と理論について学び、自身の経験や価値観を相対化していく。制度としての「教育」は時代や文化による影響を強く受けるため、時代や文化の在り方としての現代社会について批判的に考え、教育が本質的に目指しているものについて多様な視点から考えられるようになることを目標とする。	
		介護等体験 (事前・事後の指導を含む)	現在、特別支援教育を受ける児童生徒が増加し、通常の学級においても、さまざまな障害等により特別の支援を必要とする児童生徒が増加している。介護等体験では、小学校・中学校の教員免許状取得に必要な特別支援学校及び社会福祉施設等における介護等の体験活動を通じて、個人の尊厳や福祉と教育に共通する共生社会の理念に対する理解を深めることで、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期することを目的としている。	
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 (中等)	特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。また、総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通じて、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指すものである。本講義では、学習指導要領に即し、中等教育における特別活動と総合的な学習の時間の教育的意義や目標および内容、実践的な指導法の理解を深めるとともに、各教科等と効果的に関連させ地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の知識・技能を身に付ける。実際の教育現場を想定し、アクティブラーニングの観点から、指導・支援の在り方をペアワークや集団討論、DVD視聴後討論、指導計画・指導案作成後の発表会等を通して実践的な指導力の基礎を養う。	
		教育課程論Ⅰ (中等)	教育課程の原理を学ぶ。そこから、現在の学校教育、中等教育で実施されている「学習指導要領」を基準として中学校・高等学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、学校・地域の実情や子供の発達や実態に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。また、教育課程編成や学習指導要領の歴史の変遷を学び、国家、社会と教育の背景についても理解し、これからの我が国の教育の在り方や教育課程のあるべき姿まで自己の考えを持てるよう、取り組んでほしい。学校の実務経験を活かして、実際の学校での教育課程編成の進め方について指導したり、教育課程の具体的な課題について話し合わせたりしながら、より実践的な学びとなるように努めたい。	
		教育課程論Ⅱ (中等)	教育課程論Ⅰで学んだことを発展させ、教師の力量形成としてのカリキュラム・マネジメントを実践的に学ぶ。学校文化で構成されるヒドゥンカリキュラム (隠れたカリキュラム) を踏まえ、生徒の発達や実態に合わせてどのような教育を行うことが大切なのか、理解する。また、教育課程を踏まえて授業する教師に必要な専門性や力量形成についても学び、実践的に活用できるカリキュラム・マネジメントを具体的に学ぶ。	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人文学部国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目  教職科目	教育方法論 (中等)		<p>教師には、高い専門性や豊富な教養に加えて、教えることのプロフェッショナルであることが求められている。そこで本授業は、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法を理解し、それを活用できるようになることを目的とする。よい授業とはどのような授業か、どのように授業をつくっていけばよいか、どのように授業を振り返るかを、ICTを活用しながらできるだけ実践に即して考察する。さらに受講者が学んだ教育方法を自ら活用できるようにするため、模擬授業等を取り入れて授業を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (42 大畠 菜穂子)/12回) インストラクショナルデザインを用いた授業のつくり方 (19 櫻井 貴志/3回) 授業研究</p>	オムニバス方式
	情報教育の理論と方法Ⅰ (中等)		<p>情報通信技術 (Information and Communication Technology; ICT) の発展は目覚ましい。今や学校教育の現場においてもICTの利用はなくてはならないものになった。学習指導・教科教育におけるICTの活用はもちろん、公務の推進や生徒の情報管理においてもICTが利用される。また、ICTを活用するのは教師だけでなく生徒も同様である。ICTの発展により、社会・生活が便利になった反面、これを利用したトラブルは後を絶たない。この授業では情報リテラシーおよび情報モラルに関する知識を身に付けて、次世代の育成に必要な態度を養うことを目指す。</p>	
	情報教育の理論と方法Ⅱ (中等)		<p>情報はその扱い次第で様々な価値を生む。情報教育において求められる情報の扱いは、パソコンや各種ソフトウェア・アプリケーションなどの情報通信技術の扱いだけでなく、「情報」をいかに取得し、これを整理・分析し活用できる形に加工するか、また加工されるかを理解し、実践することまで含まれるべきであろう。この授業では、学校教育において扱われる情報について、これといかに向き合うかの技術と態度を獲得することを旨とする。</p>	
	中等教育実習・事前事後の指導		<p>教育実習は、生徒の心理や行動についての理解の仕方、教科等の学習指導の進め方、生徒や教職員との付き合い方等、実際の学校教育現場において、知識と技術を体験的に統合する場である。また、理論を応用的に適用できる実践力の基礎となる指導観・指導技術を学ぶことができ、自分が教師としての能力や適性を持ち得るかを確認することも求められる。この授業では、このような教育実習のための事前研究と事後研究を行い、教育実習を通した学習活動をより効果的にすることを旨とする。</p>	
	中等教育実習Ⅰ		<p>教育実習では大学において学んだ理論や技術を実際の学校教育の場で実践する。学校環境下において生徒や指導担当教員との関わりから、教師としての体験を積み重ね共にこれまでの学修と教育現場での体験を統合する。教育実習を通して、教員となるための実践上・研究上の基礎的な能力と態度を養い、教職についての使命感を高める。これにより、自己の能力・適正について自覚するとともに、新しい課題を発見して今後の大学での学びに反映させる態度を身に付けていく。</p>	
	中等教育実習Ⅱ		<p>教育実習では大学において学んだ理論や技術を実際の学校教育の場で実践する。学校環境下において生徒や指導担当教員との関わりから、教師としての体験を積み重ね共にこれまでの学修と教育現場での体験を統合する。教育実習を通して、教員となるための実践上・研究上の基礎的な能力と態度を養い、教職についての使命感を高める。これにより、自己の能力・適正について自覚するとともに、新しい課題を発見して今後の大学での学びに反映させる態度を身に付けていく。</p>	
	教職実践演習 (中等)		<p>「教職実践演習」では、教職免許状を取得すること及び教育実習を終えたことを前提として、受講者が教壇に立ったときに役立つ内容を実践的に演習する。具体的には、①「教科等の指導」について、教育実習の振り返り、学習指導要領、学習指導案、模擬授業、道徳教育と特別活動の観点から、②「生徒理解と学級経営」について、子どもの発達、生徒指導と教育相談、特別支援教育、保護者と地域社会への対応、教師の使命、教師のキャリア形成の観点から考える。いずれにしても、受講者間でディスカッションやロールプレイなどを多く取り入れ、学生が主体的に学ぶ機会を創出する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(人文学部国際英語学科)

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
専門基礎科目	学部共通科目	必修	基礎科目	比較文化	<p>世界各地の人々は、独自の生活習慣や規範、社会関係、タブーや宗教・世界観など、それぞれ固有の文化的背景のもとで生きている。本授業は、「文化」とは何か、「比較文化学」とはどのような学問かについて、様々な専門分野の講義を通して学ぶことを目的とする。また、国立民族学博物館訪問を通して、所蔵されている標本資料や写真・動画などの情報に触れ、人類文化の多様性や共通性について学ぶ（コロナなどの感染状況によって、ヴァーチャル訪問に変更となる可能性あり）。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(25 栗野 萌/2回) キリスト教の諸聖人の祭日、死者の日とハロウィンとの関係などについて学ぶ。 (9 バイヤール アヒム/1回) 日常生活でよく使用される仏教の表現と諺について学ぶ。 (8 齋藤 千恵/1回) 大規模災害被災地で行われる災害観光を通じた被災体験の記憶の伝承について学ぶ。 (26 坂井 紀公子/1回) 東アフリカを事例に多彩な綿布利用による装いの文化について学ぶ。 (24 朝田 郁/1回) 中東・イスラーム社会の気候風土、ファッション、都市構造について学ぶ。 (25 栗野 萌・26 坂井 紀公子/9回) (共同) 国立民族学博物館に関する学習</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
				ワールドトピックス	<p>この授業では、現代世界および日本で起きている出来事、問題となっている事柄を知り、その原因や背景を探りながら、それぞれの事象のつながりや今後の展望について考察する。グローバル化された現代世界では、世界各地で起きている出来事がお互いつながっているだけでなく、その原因が100年前、200年前という遠い過去の出来事に端を発していることも珍しくない。授業では、最新のニュースをとりあげ、情報収集の方法や読み解き方（リテラシー）も学びつつ、現代世界の多様な事象について空間的、時間的な広がりの中に位置づけながら考える。それらを読み解くために必要なキーワードや概念についても理解を深める。留学したり、社会人として国際的な仕事に関わったりする際に必要な基本知識を身につけ、日々あふれる世界の情報に対する感度とリテラシーを高める。</p>	
				日本社会と文化	<p>この授業では、さまざまな側面から現代の日本社会と文化を考察する。複数の教員によるオムニバス形式を取るこの授業では、提供される多様なトピックスのもとでの学びを通して、日本社会を形成してきた思考様式と文化的な課題を知り、これからの社会を展望する視点を育てることをめざす。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 齋藤 千恵/3回) 日本社会と災害について学ぶ。 (26 坂井 紀公子/2回) 白山周辺の山間地の生業（焼畑農耕と養蜂）について学ぶ。 (25 栗野 萌/2回) 日本におけるキリスト教文化について学ぶ。 (7 菊池 嘉晃/2回) 東アジア文化圏の中の日本文化について学ぶ。 (27 高原 幸子/2回) 北陸地域における麻栽培の歴史と織文化について学ぶ。 (24 朝田 郁/2回) 日本と世界の菌類・発酵文化を比較文化の視点で学ぶ。 (9 バイヤール アヒム/2回) 禅と日本文化について学ぶ。</p>	オムニバス方式
専門基礎科目	学部共通科目	選択必修	英語系	Speaking Skills I	<p>Students will work their way through the class textbook, improving their English speaking skills. There will be ample opportunities for pair and group work speaking practice. IELTS-based material will be provided, with focus on each of the three parts of the IELTS examination. Techniques for producing more advanced spoken output will be explained and put into use. The class will culminate in an IELTS examination.</p> <p>○ クラスのテキストを使いながら、英語のスピーキング力を高めます。ペアワークやグループワークによるスピーキング練習の機会も多く設ける。IELTS試験の3つのパートに焦点を当て、IELTSに基づいた教材を提供する。より高度なスピーキング力を身につけるためのテクニックを解説し、実践する。クラスはIELTS試験で締めくくられる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(人文学部国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目 学部共通科目 選択必修 英語系	Speaking Skills II		This class builds upon skills learned in "Speaking Skills I" (or on equivalent ability), with the class structure and flow being similar. Students will work their way through the class textbook, improving their English speaking skills. There will be ample opportunities for pair and group work speaking practice. IELTS-based material will be provided, with focus on each of the three parts of the IELTS examination. Techniques for producing more advanced spoken output will be explained and put into use. The class will culminate in an IELTS examination.  ○ このクラスは、「スピーキングスキル I」(またはそれに準ずる能力)で学習したスキルを基礎とし、授業の構成や流れは同様です。クラスのテキストを使いながら、英語のスピーキング力を高める。ペアワークやグループワークによるスピーキング練習の機会も多く設ける。IELTS試験の3つのパートに焦点を当て、IELTSに基づいた教材を提供します。より高度なスピーキング力を身につけるためのテクニックを解説し、実践する。クラスはIELTS試験で締めくくられる。	
	Listening Skills I		In this class, the main focus is on practical exercises for IELTS preparation. Upon completion, students are expected to comprehend recordings in various native speaker variations likely to be encountered in social, professional, or academic contexts. The goal is to identify speaker viewpoints, attitudes, and information content. Additionally, students will develop the ability to quickly scan through lengthy and complex texts, locating relevant details. The target score for this class is IELTS 4.5-5.0.  ○ このクラスでは主にIELTSの対策実践練習を行う。修了時には、社会生活、職業、またアカデミックライフで遭遇する可能性の高いネイティブスピーカーのヴァリエーションの録音を理解し、話者の視点や態度、情報の内容を特定することができることを目的とする。また、長くて複雑な文章を素早く読み、関連する詳細を見つけることができるようにする。このクラスの目標スコアはIELTS4.5-5.0である。	
	Listening Skills II		Engaging in practical exercises for IELTS preparation, building upon skills developed in the Listening I course. Upon completion, understanding recordings in various native speaker variations likely to be encountered in social, professional, or academic contexts. Identifying speaker viewpoints, attitudes, and information content as the goal. Developing the ability to quickly read lengthy and complex texts, locating relevant details. Target score for this class is IELTS 5.0-5.5.  ○ このクラスではListening Iの発展としてのIELTSの対策実践練習を行う。修了時には、社会生活、職業、またアカデミックライフで遭遇する可能性の高いネイティブスピーカーのヴァリエーションの録音を理解し、話者の視点や態度、情報の内容を特定することができることを目的とする。また、長くて複雑な文章を素早く読み、関連する詳細を見つけることができるようにする。このクラスの目標スコアはIELTS 5.0-5.5である。	
	Reading Skills I		A large number of texts at the level of IELTS 4.5-5.0 will be read. Cultural and historical awareness will be developed through this process, along with information gathering skills.  ○ アイエルツ4.5から5.0レベルの英文をたくさん読む。それによって、英文から情報を読み取っていくスキルを磨くとともに、文化や歴史に対する意識も高めていく。	
	Reading Skills II		A large number of texts at the level of IELTS 5.0-6.0 will be read. Cultural and historical awareness will be developed through this process, along with information gathering skills.  ○ アイエルツ5.0から6.0レベルの英文をたくさん読む。それによって、英文から情報を読み取っていくスキルを磨くとともに、文化や歴史に対する意識も高めていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(人文学部国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目 学部共通科目 選択必修 英語系	Writing Skills I		Students will learn about the conventions of academic writing in English through a combination of learning materials including the assigned textbook, classroom activities, compositions and homework, focusing on active participation both inside and outside the classroom. Content will focus on writing across a number of topics, academic tasks, and topics related to current events to prepare students to participate in study abroad contexts. This class will also assist students in preparation for the IELTS exam, as necessary.  ○ 本授業では、指定教科書を使い、作文、宿題などの教材を組み合わせ、教室での積極的且つ活発な参加に重点を置きながら、英語によるアカデミック・ライティングの慣例について学ぶ。内容は、多くのトピックにわたるライティング、アカデミックな課題、時事問題に関連したトピックに焦点を当て、学生が留学に参加できるように準備する。また、必要に応じてIELTS試験対策も行う。	
	Writing Skills II		Students will learn about the conventions of academic writing in English through a combination of learning materials including the assigned textbook, classroom activities, compositions and homework, focusing on active participation both inside and outside the classroom. Content will focus on writing across a number of topics, academic tasks, and topics related to current events to prepare students to participate in study abroad contexts. This class will also assist students in preparation for the IELTS exam, as necessary.  ○ 本授業では、指定教科書を使い、作文、宿題などの教材を組み合わせ、教室での積極的且つ活発な参加に重点を置きながら、英語によるアカデミック・ライティングの慣例について学ぶ。内容は、多くのトピックにわたるライティング、アカデミックな課題、時事問題に関連したトピックに焦点を当て、学生が留学に参加できるように準備する。また、必要に応じてIELTS試験対策も行う。	
	Speaking and Presentation I		In this course, you will improve your ability to present information to an audience and to do so in English. This course concentrates on the four elements of a good presentation: 1) the physical message, 2) the visual message, 3) the story message, and 4) the verbal message. You will learn tips and techniques to improve each of these elements, watch model presentations, participate in classroom activities, and practice workshops. You will also plan, prepare, practice, and perform presentations on various topics.  ○ 本授業では、英語によるプレゼンテーション能力の向上を目指す。優れたプレゼンテーションの4つの要素としては、1) 物理的メッセージ、2) 視覚的メッセージ、3) ストーリー・メッセージ、4) 言語的メッセージがある。それぞれの要素を向上させるためのヒントやテクニックを学び、模範となるプレゼンテーションを見たり、ワークショップの練習をする。また、様々なトピックに関するプレゼンテーションの計画、準備、練習、実演を行う。	
	Discussion on Current Events I		The goals of this course are to strengthen oral presentation skills of the class students and to develop their ability to conduct actively in substantial discussions of current issues. Students will examine the given topic and practice evaluating arguments, organizing and asking relevant questions, and responding actively in discussions.  ○ このコースの到達目標は、受講生の口頭プレゼンテーション能力を高め、時事問題についての本質的な議論にアクティブに関与できる力を養うことである。与えられたトピックを考察し、議論を展開し、質問を整理し、積極的に応答する実践練習をする。	
	Writing for Research I		In this course, students will learn the basic knowledge needed to write academic papers in English. They will improve their English writing skills through extensive practice in writing paragraphs and essays of various types: description, comparison, process, narration, summary, analysis, cause/effect, persuasion and problem/solution.  ○ 本授業では、英語で学術論文を書くために必要な基礎知識を学びます。記述の仕方、比較対象表現、構成過程、叙述的表現、要約方法、分析、原因と結果、説得力のある言い回し、問題解決等)のパラグラフやエッセイの書き方を幅広く練習することで、英作文のスキルを向上させる。	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人文学部国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目 学部共通科目 選択必修 文化系	英語系	Reading and Vocabulary I	The focus of this course is to develop students reading and comprehension abilities. Through reading a wide range of genres, students will improve reading skills and increase vocabulary. Students are also encouraged to develop ideas about the topics covered in class.  ○ この科目の眼目は、英文の読解力や理解力を向上させることである。広範なジャンルの英文を読むことによって、読解力を伸ばし語彙力を高めていく。また、授業で取り上げるトピックについての知識を広げ深めていくことも求められる。	
	言語文化論A		この授業は、世界の多様な言語とそれを含む文化についての学びを提供する。私たちの日常生活で、単に言語を知っているだけではスムーズなコミュニケーションは難しい。有効な対人コミュニケーションをしようとするならば、その背景にある文化を理解していることが最も重要になってくるからである。この授業では、多様な言語とコミュニケーションのあり方、そして文化を学び、グローバル化する私たちの社会とどのように関わっていけばいいのかを考察する。このコースには、英語と日本語以外の言語に精通する複数の教員が関わり、それぞれが担当の言語及び文化についての学びを提供する。学生は、初回の授業で、提供される言語と文化の学びの中から関心を持つものを選択し、コースの終わりまでそのグループで学ぶ。学生は、言語文化論AとBでは別々の言語を学ぶものとする。	
	言語文化論B		この授業は、世界の多様な言語とそれを含む文化についての学びを提供する。私たちの日常生活で、単に言語を知っているだけではスムーズなコミュニケーションは難しい。有効な対人コミュニケーションをしようとするならば、その背景にある文化を理解していることが最も重要になってくるからである。この授業では、多様な言語とコミュニケーションのあり方、そして文化を学び、グローバル化する私たちの社会とどのように関わっていけばいいのかを考察する。このコースには、英語と日本語以外の言語に精通する複数の教員が関わり、それぞれが担当の言語及び文化についての学びを提供する。学生は、初回の授業で、提供される言語と文化の学びの中から関心を持つものを選択し、コースの終わりまでそのグループで学ぶ。言語文化論Aを受講した学生は、言語文化論Bでは別の言語を学ぶものとする。	
	地域研究A		そこに住む人々の「ものの見方」に焦点を当て文化を理解しようとするのは、より良い関係性を築く第一歩である。この授業では、オセアニア島嶼部に焦点を当て、この地域の自然環境、歴史、文化、暮らしについて幅広く学ぶ。こうした学びを通して、植民地支配や放射能汚染、温暖化といったキーワードを中心に、日本をはじめとする世界の様々な地域とのつながりについて理解する。また、この地域が日本とも共有する問題について、世界へ向けてどのように情報発信ができるのかについても考察していく。	
	地域研究B		この1年生向けオムニバス科目は、地域研究を通して異なる文化や社会を理解し、世界に対する広い視野を育むことを目的とする。対象地域は東アジア、東南アジア、中東・西アジア、ヨーロッパ、アフリカである。講義では歴史、文化、社会構造などに焦点を当て、学際的な視点から各地域の特徴を考察する。学生には各地域の独自の文化や社会構造を理解し、異なる視点からの情報を統合する能力を身に付けることが期待される。地域研究を通じて異文化理解や批判的思考力を向上させ、グローバルな連携と共生を促進する基盤を築いてもらいたい。  (オムニバス方式/全15回)  ○ (7 菊池 嘉晃/2回) 東アジアの歴史、文化、社会について学ぶ。 (24 朝田 郁/3回) 中東・西アジアにおける社会制度としての宗教について学ぶ。 (25 森野 萌/2回) ヨーロッパにおける宗教の文化と社会について学ぶ。 (8 齋藤 千恵/2回) 東南アジア島嶼部の文化と社会について学ぶ。 (26 坂井 紀公子/2回) 東アフリカの文化と社会について学ぶ。 (9 バイヤー アヒム/2回) 南アジアについて学ぶ。 (27 高原 幸子/2回) 東南アジアの文化と社会について学ぶ。	オムニバス方式
	物質文化A		この授業においては、主に生活に関わる物質、特に衣服や装いを中心にその歴史や交流による変化などについて学ぶ。地域としては、東南アジア、南アジアは東アジアの装いについてその伝統文化と文化接触による変容、そして資本主義の発展による生産形態の変化を追う。近年フェアトレードという考え方が広がっているが、布の植生としての素材から、環境や風土との共生、エシカルな消費の在り方を検討する。また、移動する民がもたらす多文化環境において、自らの出自の文化的被服が禁止されるということがヨーロッパで起こっている。こうした文化差別的な起こる構造を理解し、多様な視点を身に付けることを本授業の目的とする。	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人文学部国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目 学部共通科目 選択 英語系	Speaking and Presentation II		<p>In this course, students will improve their ability to present information to an audience and to do so in English. This course concentrates on the four elements of a good presentation: 1) the physical message, 2) the visual message, 3) the story message, and 4) the verbal message. Students will learn tips and techniques to improve each of these elements, watch model presentations, and participate in classroom activities and practice workshops. Students will also plan, prepare, practice, and perform presentations on various topics.</p> <p>本授業では、英語によるプレゼンテーション能力の向上を目指す。優れたプレゼンテーションの4つの要素としては、1) 物理的メッセージ、2) 視覚的メッセージ、3) ストーリー・メッセージ、4) 言語的メッセージがある。それぞれの要素を向上させるためのヒントやテクニックを学び、模範となるプレゼンテーションを見たり、ワークショップの練習をする。また、様々なトピックに関するプレゼンテーションの計画、準備、練習、実演を行う。</p>	
	Discussion on Current Events II		<p>The primary objective of this course is to enhance students' proficiency in oral presentation and foster their capability to actively engage in substantive discussions on contemporary issues. Through the course, students will refine their abilities to critically examine assigned topics, formulate compelling arguments, articulate relevant questions, and actively contribute to discussions.</p> <p>このコースの目的は、受講生の口頭発表能力の向上と、現代的な問題についての本質的な議論に積極的に参加する能力の育成にある。学生は、与えられたトピックを精査し、議論を構築し、適切な質問を構成し、積極的に議論に参加するスキルを磨く。</p>	
	Writing for Research II		<p>In this course, students will learn the basic knowledge needed to write academic papers in English. They will improve their English writing skills through extensive practice in writing paragraphs and essays of various types: description, comparison, process, narration, summary, analysis, cause/effect, persuasion and problem/solution.</p> <p>本授業では、英語で学術論文を書くために必要な基礎知識を学ぶ、説明、比較、過程、叙述、要約、分析、原因・結果、説得、問題・解決など、さまざまなタイプのパラグラフやエッセイの書き方を幅広く練習することで、英語のライティングスキルを向上させる。</p>	
	Reading and Vocabulary II		<p>The focus of this course is to develop students reading and comprehension abilities. Through reading a wide range of genres, students will improve reading skills and increase vocabulary. Students are also encouraged to develop ideas about the topics covered in class.</p> <p>この科目の眼目は、英文の読解力や理解力を向上させることである。広範なジャンルの英文を読むことによって、読解力を伸ばし語彙力を高めていく。また、授業で取り上げるトピックについての知識を広げ深めていくことも求められる。</p>	
	Grammar in Use I		<p>In this course, the emphasis is not on explaining grammar (declarative knowledge), but on acquiring procedural knowledge of how and in what situations the grammar is actually used. For this purpose, the students who participate in this class will not only present the basic knowledge of the grammar, but introduce examples of actual usage, and provide original exercises (quizzes on the use of the grammar given the situation) to other students. Afterwards, using the dicto-gloss method of English restoration practice, students listen to the original English text, take appropriate notes, and restore the original English text from those notes. By conducting this activity as one of the active learning activities, it is expected that the students will be able to consolidate grammar concepts.</p> <p>本講義では、文法に関する説明（宣言的知識）に力点を置かず、実際にその文法がどのような場面で、どのように使用されるのかという手続き的知識の獲得を目指している。そのために、授業では、各自が割り当てられた文法について、基本的な知識を調べ、実際に使用される場面に則した例文を紹介し、他の学生に向けてオリジナルの練習問題（場面を与えた文法使用のクイズ）を出題する。そのあと、ディクトグロスという英文復元練習の手法を用い、オリジナルの英文を聞いたうえで、適切にメモを取り、そのメモから元の英文を復元するという活動を行う。アクティブラーニングのひとつとしてこの活動を行うことで、文法の概念の定着が期待される。</p>	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人文学部国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目	英語系		Grammar in Use II  In this course, the emphasis is not on explaining grammar (declarative knowledge), but on acquiring procedural knowledge of how and in what situations the grammar is actually used. For this purpose, the students who participate in this class will not only present the basic knowledge of the grammar, but introduce examples of actual usage, and provide original exercises (quizzes on the use of the grammar given the situation) to other students. Afterwards, using the dicto-gloss method of English restoration practice, students listen to the original English text, take appropriate notes, and restore the original English text from those notes. By conducting this activity as one of the active learning activities, it is expected that the students will be able to consolidate grammar concepts.  本講義では、文法に関する説明（宣言的知識）に力点を置かず、実際にその文法がどのような場面で、どのように使用されるのかという手続的知識の獲得を目指している。そのために、授業では、各自が割り当てられた文法について、基本的な知識を調べ、実際に使用される場面に則した例文を紹介し、他の学生に向けてオリジナルの練習問題（場面を与えた文法使用のクイズ）を出題する。そのあと、ディクトグロスという英文復元練習の手法を用い、オリジナルの英文を聞いたうえで、適切にメモを取り、そのメモから元の英文を復元するという活動を行う。アクティブラーニングのひとつとしてこの活動を行うことで、文法の概念の定着が期待される。	
		選択	海外留学 I  この授業は、人文学部生の海外留学と、そのための事前学習から構成されるプログラム。事前学習では、学生それぞれが留学する地域や国家と、自身がこれまで生まれ育った社会と文化双方について理解を深め、留学先での学修に活用できる知見を得ることを目的とする。また、ガイダンスや先輩学生の留学経験を通じて、留学先での生活や学修に必要なものや心構えなど、実践的な視点から留学の準備を行う。そして出発後は、自らの関心に基づいて、留学先の社会や文化について考察し、異文化体験を調査研究に昇華することを目指す。	集中講義
	演習系	海外留学 II  この科目は、人文学部生に向けた海外留学フォローアップ・プログラム。留学を終えた学生が、その学びと経験を振り返りながら、これからの学修へと発展させるために設定される。留学を終えたら、まず帰国後アンケートと最終報告書を作成する。このアンケートは、留学前の回答と比較することで、みなさんがどう成長したかを確認するためのものである。また最終報告書は、留学中の授業内容や学習成果、現地生活や異文化体験、留学前後での視点や意識の変化などを総括したものである。さらに教室授業として、みなさんの留学経験を3つの方法でアウトプットする。1つ目は留学報告会での発表です。各自の体験を十分な内省化を経た上でテーマに沿って再構成し、英語でプレゼンテーションを行う。2つ目はブックレットの作成である。留学を振り返りながら、その成果を冊子の形でまとめる。そして3つ目は、留学経験をふまえた課題探求である。これから始まる3年ゼミの活動を、海外経験やグローバルな視点を活かす場としてとらえ、そこに向けて各自の関心領域や研究課題の意識化を進める。	集中講義	
学部共通科目	選択			
専門発展科目	必修		専門ゼミナール I  このコースでは、選択された学問分野における基本的な概念と手法に焦点を当てながら、基礎的な探求を行います。教員陣による指導のもとで、広範な文献を読み、必要な基本知識を身につける。エッセイやリフレクションを含むライティングの課題は、批判的な分析とコミュニケーション能力の向上に寄与する。コースには体系的なディスカッションが不可欠であり、協力的な学びとより深い理解を促す。基本的なクリティカル・シンキングのスキルに焦点を当てつつ、理論的な概念のはぐくむ。リーディング、ライティング、ディスカッション、クリティカル・シンキングを包括するアプローチで、その後の学習のためのしっかりとした学術的枠組みを築くものである。	○
			専門ゼミナール II  このコースでは、基礎的な知識を土台とし、選択した学問分野内の専門的なトピックを深く探究する。研究論文や評論を含むライティング課題の実施を通して、高度な批判的分析と学術的表現を養うことを目指す。さらに、アクティブなディスカッションを通じて、より高度な理解力の育成を目指す。コースを通して、学生は各研究課題における努力の成果を明確にし、広範な読解力、高度な文章力、プレゼンテーションに求められる。	○
			卒業研究  卒業研究報告の執筆は、学生が蓄積してきた知識と技術の総合を意味する。これは、学問を通して培った深い理解の証となる。方法論と分析的枠組みを用いて、特定の研究テーマを丹念に探求することが要求される。卒業研究論文では、専門知識を示すだけでなく、効果的なコミュニケーションと学術的な表現力が求められ、理論的な概念を実社会の状況に適用することが理想である。学問的達成のエッセンスを凝縮したものであるといえる。	○

**授 業 科 目 の 概 要**

(人文学部国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専 門 発 展 科 目  学 部 共 通 科 目  基 幹 科 目  必 修	多文化共生論	○	この科目では、多文化共生に関する基本理論と事例研究に触れ、異なる文化的背景を持つ人々と共存する方法を模索する。グローバル化が進む現代において、人や物の国境を越えた移動が加速しており、日本を含む世界中の異なる文化的背景を持つ人々の間で、協力や対立などのダイナミックな関係が生じている。そこで授業では、日本と世界における具体的なケーススタディを通じて、グローバルな視点から多様性を理解し、異なる文化的背景を持つ人々との共生に向けた知識とスキルの養成を目指す。学生が国際的な視野を広げ、多様な環境でコミュニケーションや調和を図るために具体的なアプローチが取れるようになることを期待したい。	
	Aspects of Language and Culture	○	This course serves as an introductory exploration into the intersection of the English language with culture and society, elucidating linguistic phenomena through an academic lens. Delivered in a comprehensive format by seven faculty members, the course spans diverse topics reflective of each member's expertise and background encompassing broad areas in English studies. The curriculum offers a wide examination of the intricate interplay between English language studies and sociocultural contexts.  このコースは、英語と文化・社会との関わりを探究する入門的なコースであり、アカデミックなレンズを通して言語現象を解明する。7名の教員による総合的な講義形式で、各教員の専門分野や経歴を反映した多様なトピックが、英語学の幅広い領域を網羅している。カリキュラムは、英語学と社会文化的コンテキストの複雑な相互作用を幅広く検証する。  (オムニバス方式/全15回) (4 前田 昌寛/2回) The difference on language use in terms of function (5 リンチ ギャビン/2回) Western European Languages and Culture- Mythology, Syntax and Etymology and its Influence on English Western European Languages and Culture - Two-way Impact with the English-Speaking World (3 ブローダウェイ リック/2回) Literary Analysis and Comparative Translation I Literary Analysis and Comparative Translation II (6 松本 大貴/2回) How Linguistic Phrases are Structured - Syntax 1 How Linguistic Sentences are Structured - Syntax 2 (2 岡本 芳和/2回) Meaning and the context Speech acts and communication (1 田中 富士美/2回) World Englishes, English as a Lingua Franca and Language Policy (49 川村 義治/3回) How do children learn language? What is the meaning of language? How do people see the world?	オムニバス方式
	リサーチリテラシー	○	この授業は、社会調査を行うために必要な基礎的な調査スキルを学ぶ内容で構成されている。学生は、以下の順番で研究方法と材料に関連する 5 つのトピックを学習し、実践する。 1. 文献調査の方法 2. 調査票を用いる調査方法 (アンケート調査) 3. インタビューによる調査 (聞き取り調査) 4. 現地調査・観察 (参与観察法) 5. メディアおよびフィールド写真撮影 これらの方法を学んだ後、学生はクラスに分かれて社会調査のためのリサーチクエスチョンを作成し、英語で調査提案書を作成する。この過程で、学生はクラス担当教員の指導のもと、研究テーマを見つけ、プロジェクトに適した方法論を決定し、研究提案書を作成する方法を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(人文学部国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専 門 発 展 科 目  学 部 共 通 科 目  必 修  基 幹 科 目	Academic Writing		In this course, students will learn the basic skills and knowledge needed to write an academic research paper in English. At the completion of this course, students will be able to: <ul style="list-style-type: none"> <li>• research a topic and evaluate the quality of sources of information.</li> <li>• organize a research paper by writing a thesis statement and an outline.</li> <li>• write a proper introduction, body, conclusion, and reference list.</li> <li>• support main points with credible information.</li> <li>• avoid plagiarism by citing and quoting sources of information.</li> <li>• write in an academic tone and style.</li> <li>• avoid common writing flaws</li> <li>• use online tools and reference materials effectively and safely</li> </ul> ○ 本授業は、英語で学術研究論文を書くために必要な基本的スキルと知識を学ぶ。この授業では、以下のことを学ぶことができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 題材を調査し、情報源の質を検証する。</li> <li>• 論文とアウトラインの書き方など論文の構成力が身につく。</li> <li>• 適切な序論、本文、結論、参考文献リストの作成方法。</li> <li>• 信憑性のある情報で要点をまとめる。</li> <li>• 情報源の引用や剽窃を避ける。</li> <li>• 学術的な文章構成を組み立てる。</li> <li>• 文章作成上の誤りを回避する方法。</li> <li>• オンラインツールや参考資料を効果的且つ安全に活用する。</li> </ul>	

授 業 科 目 の 概 要

(人文学部国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専 門 発 展 科 目  学 部 共 通 科 目  選 択 必 修  資 格 対 策	TOEIC I	○	The class style will be a teacher-led one, with students often working in pairs or groups to develop and use the linguistic knowledge presented. This class consists of seven teaching sessions (including an on-demand component), culminating in a final examination. There will be frequent test drill work both inside and outside the classroom. Learning will be active and peer-practice/confirmation based. Entry requirements: None The goal of this class is for students to reach a TOEIC test score ability of 650 points. Students who have already proven such ability are expected to take a higher level TOEIC class.  授業は教員主導で行われ、学生は主に、ペアやグループで、提示された言語知識を発展させ、使用する。このクラスは全7回（オンデマンドを含む）で構成され、最終的に期末試験を行う。教室内外で頻繁にテスト演習を行う。学習は能動的で、相互実践・確認に基づく。 履修条件 なし このクラスの目標は、TOEICテストで650点を取ることである。すでにその実力が証明されている学生は、より高いレベルのTOEICクラスを受講することが期待される。	
	TOEIC II	○	The class style will be a teacher-led one, with students often working in pairs or groups to develop and use the linguistic knowledge presented. This class consists of seven teaching sessions (including an on-demand component), culminating in a final examination. There will be frequent test drill work both inside and outside the classroom. Learning will be active and peer-practice/confirmation based. Entry requirements: 650 TOEIC points, or completion of TOEIC I The goal this class is for students to reach a TOEIC test score ability of 700 points. Students who have already proven such ability are expected to take a higher level TOEIC class.  授業は教員主導で行われ、学生は主に、ペアやグループで、提示された言語知識を発展させ、使用する。このクラスは全7回（オンデマンドを含む）で構成され、最終的に期末試験を行います。教室内外で頻繁にテスト演習を行う。学習は能動的で、相互実践・確認に基づく。 履修条件 TOEIC650点、またはTOEIC I 修了者。 TOEICテスト700点を目標とする。すでにその実力が証明されている学生は、より高いレベルのTOEICクラスを受講することが期待される。	
	TOEIC III	○	The class style will be a teacher-led one, with students often working in pairs or groups to develop and use the linguistic knowledge presented. This class consists of fourteen teaching sessions and an on-demand component, culminating in a final examination. There will be frequent test drill work both inside and outside the classroom. Learning will be active and peer-practice/confirmation based. Entry requirements: 700 TOEIC points, or completion of TOEIC II The goal this class is for students to reach a TOEIC test score ability of 730 points. Students who have already proven such ability are expected to take a higher level TOEIC class.  授業は教員主導で行われ、学生は多くの場合、ペアやグループで、提示された言語知識を発展させ、使用する。このクラスは、14の授業セッションとオンデマンド授業で構成され、最終的に修了試験が行われます。教室内外で頻繁にテスト演習を行います。学習は能動的で、相互実践・確認に基づきます。 履修条件 TOEIC700点、またはTOEIC II 修了者。 TOEICテスト730点を目標とします。すでにその実力が証明されている学生は、より高いレベルのTOEICクラスを受講することが期待されます。	
	TOEIC IV	○	The class style will be a teacher-led one, with students often working in pairs or groups to develop and use the linguistic knowledge presented. This class consists of fourteen teaching sessions and an on-demand component, culminating in a final examination. There will be frequent test drill work both inside and outside the classroom. Learning will be active and peer-practice/confirmation based. Entry requirements: 730 TOEIC points, or completion of TOEIC III The goal this class is for students to reach a TOEIC test score ability of 750 points. Students who have already proven such ability will not take this class.  授業は教員主導で行われ、学生は主に、ペアやグループで、提示された言語知識を発展させ、使用する。このクラスは、14の授業セッションとオンデマンドで構成され、最終的に修了試験が行われます。教室内外で頻繁にテスト演習を行います。学習は能動的で、相互実践・確認に基づく。 履修条件 TOEIC730点、またはTOEIC III 修了者。 TOEICテスト750点を目標とする。すでにその実力が証明されている学生はこのクラスを履修しないものとする。	

授 業 科 目 の 概 要

(人文学部国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門発展科目 国際英語学科	コア科目 選択必修		English Linguistics  We started learning English in our early days of life at school. Despite this fact, a 5-year-old American child can speak English far better than we do, with no intensive training. Why? In this class, we aim to understand various differences between native English speakers and English learners like us by closely looking at many aspects of the English language from the perspective of linguistics.  ○ 我々のほとんどは、とても早い段階から何年も学校で英語を学ぶ。にも関わらず、アメリカで生まれ育った5歳の子どもの方が我々よりもはるかに巧みに英語を操る。これはなぜか。この講義では、言語学の観点から英語の諸相を詳しく見ることで、英語母語話者と我々のような英語学習者の間に見られる様々な違いについて理解することを目指す。	
			実践英文法  コミュニケーションでは「間違いを恐れるな」とよく言われるが、local grammarである「a, the」の使い分けひとつでもコミュニケーションに支障が出る場合も考えられる。本講義では、Grammar in Use (英文法) の発展として、さらに細かな英文法を取り扱い、実際のコミュニケーションでは英文法がどのように使用され、どの点でコミュニケーションに齟齬が生じやすいかを、実践例をとおして深めていく。	
			音声学  音声学は言語学の基礎的な部門であり、個別言語の音声・音韻研究のみならず、言語研究のさまざまな分野を理解するための前提になっている。音声学の知識は、英語教育や日本語教育、その他の外国語教育においても大変有用である。この授業では、言語音の産出のしくみと音声記号による表記の仕方を中心に、発音と聞き取りの実践的な訓練を行いつつ、音声学の基本を学ぶ。教科書は『日本語音声学入門』となっているが、世界の言語の様々な音声を取り上げられている。この中から特に英米語の音声については、日本語の音声と対照させて詳しく解説する。	
			Comparative Study of English and Japanese  When Japanese speakers learn English, a foreign language, they tend to learn it through the structure of Japanese, their native language. The structure is a framework or a process of perceiving and understanding the world around them. English and Japan have their own specific ways of describing the world, but as natural language, both languages also have much in common. The course considers the differences and similarities of both languages by comparing and contrasting English and Japanese in terms of the interplay of syntactic and semantic features, such as subject-predicate structure versus topic-comment structure, high-context communication versus low-context communication, polysemy, and so forth. The course indicates that both English and Japanese languages are grounded in similar physical experience and cognitive patterns though they come from different origins.  ○ 日本語話者が英語という外国語を学ぶ際、母語である日本語の仕組みを通じて学びがちである。言語の仕組みは身の回りの世界を認知し理解する方法あるいは手順となる。英語と日本語には世界を言い表す独自の方法があるが、自然言語として両言語には多くの共通点もある。この講座は統語的特性と意味的特性の相関という観点から英語と日本語を比較・対照して両言語の違いと類似性を考える。具体的には、主語優越構造と主題優越構造の比較、高コンテキスト伝達と低コンテキスト伝達の比較、語の多義性などの項目を扱う。授業を通じて、英語と日本語は異なる起源から由来するけれども似たような身体経験と認知パターンに基づいていることが示される。	
			Practice in English Linguistics  This class focuses on various kinds of English language phenomena by making comparisons with other languages, especially Japanese. Students are expected to deepen their understanding of and interest in language research by learning a wide range of topics. The knowledge accumulated through active participation in this class will be useful to think logically and find underlying principles behind various language phenomena and beyond.  本講義では、英語における様々な現象を、日本語を中心とした他言語との比較を通して学ぶ。受講者は、多岐にわたる言語学の諸相を学習することで、言語研究への理解や関心を深めることが期待される。また、講義を通して習得した知識は、論理的に考えることや、言語やそれを超えた諸現象の背後に潜む原理を見つけ出す際に有益となろう。	
	選択 応用系			

授 業 科 目 の 概 要

(人文学部国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 発展 科目  国際 英語 学科  選択  応用 系	World Englishes and English as a Lingua Franca		<p>English has gained recognition as a lingua franca, a status attributed to its extensive utilization in facilitating global political, economic, and intercultural communication. In addition to its pivotal role in international relations, English functions as an indispensable communicative tool in scientific, technical, business, and academic domains. Consequently, proficiency in English is acknowledged as a valuable asset that operates within diverse contexts, fostering personal, social, and economic development at both national and individual levels.</p> <p>This course delves into the historical underpinnings and contemporary manifestations of the global dissemination of English. Scholarly inquiry in this field spans various regions, engaging researchers from across the globe in the intricate examination of the complexities inherent in the diffusion of the English language. Students undertaking this course will be exposed to a diverse array of literature, cultivating an understanding of the multifaceted dimensions associated with the global diffusion of English.</p> <p>英語は国際共通語として認知され、その地位はグローバルな政治、経済、異文化間のコミュニケーションを促進するために広く利用されていることに起因している。国際関係において極めて重要な役割を果たすだけでなく、科学、技術、ビジネス、学術の分野においても、英語は不可欠なコミュニケーションツールとして機能している。その結果、英語の運用能力は、多様な文脈の中で、国家レベルでも個人レベルでも、個人的、社会的、経済的発展を促進する貴重な資産として認識されている。</p> <p>このコースでは、英語の世界的な普及の歴史的背景と現代的な現象について掘り下げていく。この分野の学問的探究は様々な地域にまたがり、世界中の研究者が英語の普及に内在する複雑さを検証している。このコースを履修する学生は、多様な文献に触れ、英語の世界的な普及に関連する多面的な次元についての理解を培う。</p>	
	Cross-Cultural Understanding		<p>People can be significantly affected by a wide range of social and cultural issues. Therefore, this course aims to deepen the understanding of social and cultural diversities by discussing current global issues. It also aims to help students reconsider the characteristics of Japanese people and their culture in light of what they learn about different people and their cultures.</p> <p>To be specific, the course focuses on five issues: how people's ethnic backgrounds affect their ways of living, why more and more young people in many parts of the world are living with their parents these days, why young people change their jobs so often, what qualities young people look for in their marriage partners, what makes a happy life. Students are required to learn why people of different cultural backgrounds can think and behave differently in the similar circumstances, and realize that people share many things but they are also quite diverse in many ways.</p> <p>人々は多様な社会的・文化的課題により大きく影響されることがある。それゆえ、この講座は現在のグローバルな課題を議論することで、社会的・文化的多様性への理解を深めることを目標とする。また、異なる人々や文化についての学びを踏まえて、学生が日本人と日本文化の特徴を見直すのを手助けをする。授業は次の五つの課題を扱う。民族的背景が人々の生き方にどのように影響するのか、世界各地でますます多くの若者が親と一緒に暮らしているのはなぜか、若者が頻繁に転職する理由は何か、今日の若者は結婚相手にどのような資質を求めると、どうしたら人々は幸せな暮らしができるかである。同じような状況下でも異なる文化的背景を持つ人々は考えや行動が異なることがあり、人々は多くの物事を共有するが多くの点で多様であることに気づくことを学生は求められる。</p>	
	English Literature		<p>This course deals with the stories of famous Victorian novels and introduce the results of research on literary interpretation. Students also learn the social background in which such works were produced.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Students acquire, through the study of literary works, diverse way of thinking.</li> <li>• Students increase knowledge about historical and cultural characteristics of the U.K. to be able to communicate more effectively with foreigners.</li> </ul> <p>この科目ではヴィクトリア朝の有名な小説を扱い、作品解釈の色々な研究結果を紹介する。また、それらの作品が生み出された社会的背景についても学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 学生は文学作品の研究を通して多様な思考力を身につけていく。</li> <li>• 学生は、海外の人たちとより有益なコミュニケーションができるように、イギリスの歴史的文化的知識を増やしていく。</li> </ul>	

授 業 科 目 の 概 要

(人文学部国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専 門 発 展 科 目 国 際 英 語 学 科 選 択 実 践 系	Second Language Acquisition		The primary goal of this course is to help you become more comfortable with the essential concepts of language acquisition (SLA), theories of language learning, and will approach this from the perspective of language learners and teaching approaches. Students will be asked to draw upon their experience as language learners, bilinguals, and potential future educators.  このコースの主な目的は、言語習得 (SLA) の本質的な概念や言語学習の理論に慣れってもらうことであり、言語学習者や教授法の観点からアプローチしていく。学生は、言語学習者、バイリンガル、そして将来の教育者としての経験を生かすよう求められる。	
	通訳ガイド		ボーダーレスな現代社会において、異なる言語や文化的背景を持つ人々とコミュニケーションを図る重要性がますます高まるなか、政治、ビジネス、スポーツ、エンターテインメントなど、様々な分野で異文化コミュニケーションを支えているのが通訳者である。また、日本に住む外国人の増加に伴い、コミュニティ通訳の重要性も高まっている。コミュニティ通訳は、居住地域の公用語や優勢な言語を話せない個人や集団が、政府・地方自治体が提供するサービスを利用したり、意思疎通を図ることを可能にする。この授業では、会議通訳とコミュニティ通訳の2種類の通訳を扱い、英日双方の通訳スキルを身につける。	
	会議通訳		通訳案内業 (ガイド) とは、訪日外国人を日本各地へ案内し、文化や伝統、生活習慣などを外国語を使って紹介するという仕事である。通訳案内士には、高度な言語能力や歴史・地理・文化などの観光に関する豊富な知識、旅程管理や災害対応などの実務能力が求められる。本講座では、日本や日本文化に関する様々なトピックを題材に、通訳やプレゼンテーションの実践を通して、上記分野の基礎知識の習得と英語力のレベルアップを目指す。	
	文芸翻訳		翻訳は、言語教育の重要なツールであると同時に、人々との文化の交流には不可欠な役割を果たしている。文芸翻訳は、文芸的な言葉や表現を通常使用する言語から際立たせるために、翻訳に適した文芸的な表現を用いて文章を構成していく。本授業では、基本的な翻訳テクニックを踏まえ、重要な文学的用語やその概念、文学翻訳をより創造力豊かに学んでいく。さらに、英語の4技能 (読む、書く、話す、聞く) の練習や、文学作品の英訳を行う機会も提供する。	
	Debate		In this course, students will explore and apply the principles of argumentation and debate using English language. This will prepare students to work with a great range of opinions and evidence, to consider questions from varied viewpoints and to learn any and all assumptions may be challenged. Students will conduct database research, synthesize data and analyze the quality of evidence.  本授業では、英語によるディベートの特質と構造の多様性を学び、あるテーマに対して多面的に考察し論理の組み立てができるスキルを養う。ディベートを行う上でのテーマに関するリサーチ方法の学修と実践、および質問へのレスポンスや反論の方法を学修する。	
	Media English		In this class, we expose ourselves to the type of English used in news media by reading and listening to various excerpts from newspapers and so on. The aim of the class is to familiarise ourselves with media English, and in the course of doing so, we also seek to deepen our understanding of the prospects and problems of the world that we live in.  本講義では、新聞などからの抜粋を通して、ニュースで用いられる英語に触れる。講義の目的は、メディア英語に慣れ親しむことであり、その中で我々の住む世界がはらむ問題や、世界の展望についての理解を深めることを目指す。	
	フューチャースキルズプロジェクト		国際的に活躍する職業人を育成するため、必要な企画力やプレゼンテーション力をつける。外部より企業で活躍されている方をお呼びして、話を聞いたり、プレゼンテーションをしたりする。座学のみならず、企業製品を見て分析し、売上げの向上に寄与するにはどうしたらよいか、などを考え発表していく。	

授 業 科 目 の 概 要

(人文学部国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 発展 科目  国際 英語 学科  選択 系  実践 系	English in Tourism		The class will follow a PBL (project based learning) assignment, carried out in groups. This will have students focus on using English to create a comprehensive tour. Deliverables at the end of the semester/quarter will be: 1. A tour slideshow (digital) 2. A itemized budget and profit calculations (digital) 3. A pamphlet (paper)  In parallel, a class textbook will be followed giving information on living/working/studying in eight or more regions around the world. Quizzes/tests will be based on this content.  授業はPBL (プロジェクト・ベースド・ラーニング) の課題に沿って進められ、グループに分かれて実施される。学生たちは英語を使って総合的なツアーを作成する。学期末・四半期末の成果物は以下の通り： 1. ツアーのスライドショー (デジタル) 2. 予算書と利益計算書 (デジタル版) 3. パンフレット (紙)  並行して、世界8地域以上での生活・就労・留学に関する情報をまとめたテキストを使用する。小テストはこの内容に基づいて行われる。	
	Writing for Business		In today's increasingly globalized society and internationalization of the workforce, English is an important tool to compete in the business world. In this class, students will be exposed to a variety of English used in various business situations in order to improve their business writing skills. This includes distinguishing between formal, semi-formal, and casual language in writing. This is important for avoiding misunderstandings and building better relationships with business partners, coworkers, customers and suppliers.  グローバル化が進み、労働力の国際化が進む今日、英語はビジネスの世界で戦うための重要なツールである。このクラスでは、ビジネス・ライティングのスキルを向上させるために、様々なビジネス・シーンで使用される様々な英語に触れていく。これには、ライティングにおけるフォーマル、セミフォーマル、カジュアル言語の区別が含まれる。これを学ぶことは、誤解を避け、ビジネス・パートナー、同僚、顧客、サプライヤーとより良い関係を築くために重要なことである。	
	実践ビジネススキル		英語科目をとおして身につけた英語力を武器に、ビジネスにおいて実践的に活躍する力を獲得するために、第一線で活躍する職業人から、ビジネスに必要な実践力を学ぶ。具体的には、職業人から演習形式を中心として「ロールプレイ」や「タスク」などをして、実際に仕事の現場で起き得ること、それも英語を必要とする国際社会の場とともに、国内での場も想定して対応できる実践的な学修を行う。	
	Interpersonal Communication I		In this course, students will practice communicating in English (both orally and in writing) with another non-native speaker of English. It prioritizes authentic, interpersonal interaction between individuals, the sharing of personal knowledge, and the application of general concepts related to interpersonal communication. All spoken interaction takes place face-to-face in class while all written interaction takes place in online forums.  この授業では、英語を母国語としない人と英語でのコミュニケーション (口頭と筆記の両方) を練習する。個人間の本格的な交流、個人的知識の共有、対人コミュニケーションに関する一般的な概念の応用を優先します。会話はすべてクラスで対面式で行われ、文章でのやり取りはすべてオンライン・フォーラムで行われる。	
	Interpersonal Communication II		In this course, students will practice communicating in English (both orally and in writing) with a non-native speaker from another culture. It prioritizes authentic, interpersonal interaction between individuals, the sharing of cultural knowledge, and the application of general concepts related to cross-cultural communication. All interaction takes place online, either through video conferences or in text-based forums.  この授業では、英語を母国語としない他文化の人々と英語でのコミュニケーション (口頭と筆記の両方) を練習する。個人間の本格的な交流、文化的知識の共有、異文化コミュニケーションに関する一般的な概念の適用を優先する。すべての交流は、ビデオ会議やテキストベースのフォーラムなど、オンラインで行われる。	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人文学部国際英語学科)

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
専門 発展 科目	国際 英語 学科	選択	実践系	English in the Age of AI  The recent surge of AI technologies, especially natural language processing (NLP), enables us to translate English into Japanese and vice versa with no difficulty or effort. But is the process that these technologies uses the same as the way we produce and interpret languages? In this class, we take a look at a particular kind of computation that humans are assumed to execute to generate linguistic expressions, and compare it with what AI techs do. The aim in this class is to understand what makes us unique in the animal kingdom and what differentiates us from AIs.  近年のAI技術（特に自然言語処理 NLP）の目覚ましい発展により、我々は何の苦勞もせずに日英語翻訳を行えるようになった。しかし、これらの技術で用いられる手法は、我々人間が言語を用いる際に行うものと同じなのだろうか。本講義では、人間が言語表現を生み出すさいに用いているとされる計算プロセスの1つに目を向け、それをAI技術で用いられる手法と比較する。講義の目的は、我々人間を他種と分かつ要因について学び、AIと人間がどう違うかを理解することである。	
			教職専科	英語科教育法Ⅰ  この授業では、まず、英語教育における英語教師になるために必要な知識を学んでいく。英語教育に必要な知識について全体の概要を把握していくことがねらいである。例えば、英語教育の目的や日本における英語教育の歴史、学習指導要領の変遷、様々な教授法について学び、求められる英語教師について考えていく。コミュニケーション能力を向上させるための最新の指導法を学びながら、ディスカッションをとおして具体的に効果的な指導過程について受講者が主体的に考えていく。最後に学習指導案を作成し、実際の模擬授業を行い、指導法の知識を活用して英語の授業ができるようにする。	
			英語科教育法Ⅱ  この授業は実際の授業場面を意識して、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて、どのように主体的学習、対話的学習、深い理解を促す指導法を実現できるかについて考えていく。授業にペアワークやグループワークを取り入れ、実際にミニ模擬授業も実施し、学生同士が理解を深め合い技能を高め合う。		
			英語科教育法Ⅲ  英語教師及び英語教育に必要な知識について、言語学の見地から学ぶ。英語教師にとって深い言語学の知識と、それを普段の授業にどのように活用および応用していくかを学ぶ。具体的な英文例も豊富に取り入れながら、実証的に学んでいく。		
			英語科教育法Ⅳ  この授業は英語科教育法Ⅱに引き続き、実際の授業場面を意識して「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて、どのように主体的学習、対話的学習、深い理解を促す指導法を実現できるかについて考えていく。授業にペアワークやグループワークを取り入れ、実際にミニ模擬授業も実施し、学生同士が理解を深め合い技能を高め合う。		

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。